

# Heart of Tajimi

## -たじみ市民討議会2012- 実施報告書



2012年 9月



社団法人 多治見青年会議所



## 実施報告書 目次

■ はじめに	3
■ 第1章 市民討議会について	4
1-1 プラヌクスツェレとは	4
1-2 市民討議会とは	
■ 第2章 たじみ市民討議会について	
2-1 Heart Of Tajimi たじみ市民討議会 実施概要・経過	7
○概要	
○報告書の位置づけ	
○たじみ市民討議会の目的	
○運営組織	
○実行委員会	
○スケジュール	
○討議テーマ	
2-2 討議方法	10
○討議テーマ	
○テーマ選定理由	
○参加者について	
○謝礼について	
○情報提供について	
○話し合いのルール	
○発表と投票	
■ 第3章 話し合いの結果と市民からの提言	
3-1 討議テーマ1の話し合い結果と提言	13
3-2 討議テーマ2の話し合い結果と提言	
3-3 討議テーマ3の話し合い結果と提言	
3-4 討議テーマ4の話し合い結果と提言	
■ 第4章 たじみ市民討議会の検証	
4-1 たじみ市民討議会の有効性	
○たじみ市民討議会の有効性	26
○効果のまとめ	
4-2 たじみ市民討議会後の取り組み	
○中間報告会	

- 報告書の作成
- 事後のフォロー
- 討議シート
- 参加者アンケート結果
- 第5章 たじみ市民討議会の広報
  - 5-1 たじみ市民討議会の掲載記事
    - 掲載記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
- 終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58



## ■ はじめに

この報告書は、多治見市と社団法人多治見青年会議所と市民討議会実行委員会が、たじみ市民討議会実施における協定書を結び、「日本一住みやすいまち たじみにするには～」をテーマに実施した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会2012ー」の結果を集計・分析し、市民提言として多治見市に提出すること、さらに市民協働のまちづくりを推進していくにあたり、今後の展開を考慮しマニュアル化することを目的にまとめたものです。

多治見市において「市民討議会」は一昨々年に第1回を開催し、本年度で4回目の開催となりました。「たじみ市民討議会」の大きな特徴は、過去に市民討議会に参加された方々を交えて、多治見青年会議所、多治見市役所で実行委員会を組織し、テーマ選定、運営に至るまで一緒に協働して開催しております。昨年同様、実行委員長を市民スタッフから輩出し、真の市民主導によるまちづくりに向け、市民の方々が積極的に参画できる仕組みを整えてきました。

20歳以上の有権者を対象に完全無作為抽出により1600名の市民の皆様に参加依頼書を送付致したところ、46名の参加承諾があり、当日37名の方にご来場いただきました。

昨年の東日本大震災、そして多治見市では台風12号により水害被害が起きました。また、近い将来高い確率で起こるといわれております東海・東南海地震の脅威を考えると、防災・減災は避けて通れない喫緊の課題として捉え、市民の皆様の日頃の災害についての備えと、防災という切り口から今年のテーマとして『防災』について、当日出席頂いた37人が6つのグループに分かれ、大テーマ「日本一住みやすいまち たじみにするには」、中テーマ「地域と行政が連携して災害に強いまちにするには」について2日間にわたり討議し、発表・意見集約しました。まちの喫緊である課題について意見を募り、その意見を集約して行政への提言として提出しました。回を重ねるごとに市民討議会に取り上げるテーマ選定等において、今、本当にまちが取り組むべき重要課題について、無作為で選ばれた多くの市民の方々の平均的な意見を頂ける仕組みになっており、市民の声がタイムリーにまちづくりに活かせると考えます。

この報告書を市民提言として多治見市に提出するにあたり、この内容を多治見市の施策に反映していただくことを参加市民に代わりましてお願いいたします。

最後に、たじみ市民討議会を開催するにあたり討議に参加して頂いた市民の皆様、古川市長、行政関係者、(社)多治見青年会議所の皆様、実行委員会の各位に衷心より感謝申し上げます。

(社)多治見青年会議所  
地域の力創造委員会  
委員長 渡辺裕丈



## ■ 第1章 市民討議会について

### 1-1 プラークスツェレとは

プラークスツェレ（独：Planungszelle:計画細胞）は、ペーター・C・ディーネル（Peter C. Dienel）ドイツ・ヴパタル大学名誉教授により1970年代に考案された市民参加の手法です。最初に行われたのはドイツ・シュヴェルムにおいて実験的に実施され、それ以降50カ所以上で、200回以上開催されています。本格的に行政で導入を開始したのは2000年ごろからですので、ドイツにおいて本格的に定着するのに約30年かかったことになります。脚光を浴びるようになったのはここ10年くらいです。

ドイツでは、1990年のドイツ統一後、地方公共団体において住民投票制度が導入されていたことに伴い、直接民主主義に対する認識が高まった。このような潮流の中で、市民参加の手法の1つとしてプラークスツェレが注目された。現在では、スペインやオランダなどでも取り組みがなされています。

ディーネル博士はプラークスツェレの定義を「無作為抽出で選ばれ、限られた時間、有償で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである」としています。

実際に行われた内容を踏まえ、簡単にまとめると以下の通りになります。

- ① 解決が必要な、真剣な課題に対して実施する。
- ② 参加者は住民台帳から無作為で実施する。
- ③ 有償で一定期間の参加（4日間が標準）
- ④ 中立的な独立機関が実施機関となり、プログラムを決定する。
- ⑤ 一つのプラークスツェレは原則25名で構成し、複数開催する。2名の進行役がつく
- ⑥ 専門家、利害関係者から情報提供を受ける
- ⑦ 毎回メンバーチェンジしながら、約5名の小グループで、参加者のみが討議を繰り返す。
- ⑧ 「市民の意見」という形で報告書を作成し、参加した市民が正式な形で委託者に渡す。

「まちづくりと新しい市民参加」篠藤明德著（イマジジン出版）より抜粋

## 1-2 市民討議会とは

これまで市の方針や施策を決める場面において、行政が実施されてきた「市民の声を聞く仕組み」として、地区懇談会やパブリックコメントなどに取り組んでいます。しかしこれらに参加する市民は、それぞれの分野に興味をもち、時間的にも比較的余裕のある限られた市民の意見になる懸念もあります。社会全体の市民、無関心層やサイレントマジョリティー（物言わぬ多数派）といった市民の意見を取り込んだ、多治見市民の平均的な意見をいただき、「市民の声・社会の声」として行政にいかしていく仕組みです。

この市民討議会は、無作為に抽出した市民の方々に参加依頼書を出し、その中から参加の意思表示をいただいた方々に、テーマに沿って多治見市の課題について話し合いをしていただきます。討議の前に公正な情報提供を行った上で、小グループに分かれ討議いたします。そして、グループごとに意見を取りまとめ、そのグループごとの意見に対して全員で投票します。結果については多数意見だけでなく、少数意見を含めた全ての意見と得票数をとりまとめ、今後の行政に反映されるよう、「市民提言」として提言書を市に提出します。

### 市民討議会の特徴

#### 1. 参加者の無作為抽出

住民基本台帳から無作為に抽出した市民の方々に参加依頼書を郵送し、参加希望者を募ります。

#### 2. 参加者の有償性

無作為抽出により選ばれた参加者には、報酬を支給します。

#### 3. 専門家による情報提供

討議（話し合い）の前に、行政担当者などから現状についての情報提供を行います。

#### 4. 参加者が討議・意見集約

参加者がグループ別討議により意見を出し合い、意見集約・合意形成をします。

#### 5. 討議結果のまとめ・公表

討議結果は市への提案書としてまとめ、その内容は市の広報誌やホームページなどで公表します。



## ■ 第2章 たじみ市民討議会について

Heart of Tajimi たじみ市民討議会 実施概要・経過

### ○概要

一昨々年（2009年）5月に、（社）多治見青年会議所から古川市長へ、無作為抽出による新しい市民会議である「市民討議会」を提案し、たじみ市民討議会の実施に関する協定書を締結しました。（社）多治見青年会議所と多治見市と開催に向けて準備を進め、2009年6月に第1回のたじみ市民討議会を開催致しました。一昨年度は、6月26、27日に2009年度に市民討議会に参加された市民の方々をボランティアスタッフとして実行委員会を組織し開催、昨年度は6月18、19日に2010年度同様、参加された市民の方々を交えて実行委員会を組織し、テーマ選定、運営に至るまで一緒に協働し、「Heart of Tajimi たじみ市民討議会」を開催致しました。

### ○報告書の位置づけ

本報告書は、社団法人多治見青年会議所と多治見市が締結した「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会2012ー」（以下、たじみ市民討議会という。）の実施に関する協定書にもとづき、社団法人多治見青年会議所と多治見市が共催で「たじみ市民討議会」を実施し、そこで行われた話し合いの結果を市民提言として多治見市に施策への反映を求めるとともに、市民討議会という新たな市民参加の取り組みについて検証・評価したものである。

本報告書は、上記協定書にもとづき社団法人多治見青年会議所が多治見市に提出するものである。

### ○協定書締結

「たじみ市民討議会」は、2012年5月に締結された実施に関する協定書にもとづき実施された。実施に関する協定書では、たじみ市民討議会の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、社団法人多治見青年会議所と実行委員会、多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めることとした。



【調印式の様子】

## ○たじみ市民討議会の目的

多治見市では、市民参加の手法として、「地区懇談会」や「パブリックコメント」など、数々の取り組みを行ってきました。今回はドイツの市民参加の手法である「プラーヌクスツェレ」を参考にして、たじみ市民討議会を実施した。

その目的は、これまで行政に声を届けるきっかけが少なかったサイレントマジョリティーと呼ばれる一般の市民の市政への参加を促し、その声を行政に届け、まちづくりにいかすことで、市民の行政への参加意識の高揚と、行政と協働のまちづくりを推進することである。

## ○運営組織

(社)多治見青年会議所の会員10名、市民スタッフ10名、多治見市役所職員3名により、実行委員会を組織し、実行委員長には市民スタッフから選任して運営しました。

実行委員会が様々な立場の委員で構成されたことにより、幅広い意見が出し合え、また対等な立場で決定、承認が行われました。

## ◎実行委員会◎

実行委員長：竹本幸二

副委員長：鈴木志郎 水野智恵子

委員：市橋直人 伊藤敏樹 稲葉 彰 梶田朋人 田中徹 田中友二 藤原 清  
吉田有記 (以上市民スタッフ)

伊佐治隆志 板垣邦彦 伊藤誠基 大嶋幸生 小川竜一 小栗久美子 小澤全和

鈴木周作 田口智博 長江賢太郎 渡辺裕丈 (以上(社)多治見青年会議所)

赤塚俊公 小澤 稔 玉野和道 (以上 多治見市役所)

## ○スケジュール○

会議・作業スケジュール等	内容	備考欄
第1回実行委員会	顔合わせ 今後のスケジュールについて	産業文化センター3階
第2回実行委員会	テーマの選定①	文化会館 練習室4
第3回実行委員会	テーマの選定①	文化会館 練習室1
第4回実行委員会	役割分担(設営等)	
開催準備作業	参加依頼書の封筒詰め	
協定書締結		
記者発表		
開催準備作業	参加依頼書の発送	

第5回市民討議会実行委員会	参加者への情報提供の検討	
開催リハーサル①		
参加依頼書返信締切		
参加者最終決定		
参加者への開催案内送付		
開催リハーサル②		
開催リハーサル③		
第6回実行委員会	開催当日に向けての最終打合せ	
市民討議会開催	23日 24日	
提言書提出準備作業①	アンケート集計①	
提言書提出準備作業②	アンケート集計②	
提言書提出準備作業③	報告書作成①	
提言書提出準備作業④	報告書作成①	
提言書に係る中間報告会		
提言書提出準備作業⑤		
提言書提出		

今年も昨年同様約6カ月前から事前準備を開始しました。実行委員会の組織までに約1カ月、広報に2カ月、案内状の送付から参加者の決定までに約1カ月の時間を要しました。参加者への事前説明会は行わず、討議の流れ等を示したマニュアルを送付することで対応しました。

討議会終了後、半月で、提言書の素案を作成し、討議会参加者への中間報告会を行いました。中間報告会で参加者の皆様からご指摘を頂いた箇所を訂正の上で、8月22日に市長に提言書を手渡しました。



【提言書提出式の様子】

## 2-2 討議方法

### ○討議テーマ○

《大テーマ》

「日本一住みやすいまち」たじみにするには

《中テーマ》

地域と行政が連携して災害に強いまちにするには

討議テーマ

1. 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう
2. 防災マップを日ごろから活用するには
3. 地域の自主防災組織の課題を検証しよう
4. 地域と行政が災害時に情報を共有し連携を図るには

### ○テーマ選定理由○

以下の2点に留意しながら詳細な討議テーマの選定を行いました。

- ① テーマを絞ってより具体的な意見、アイデアの出る討議テーマであること
- ② 参加者の活発な意見交換が行われるよう、市民にとって身近で関心の高いテーマであること

### ○参加者について○

たじみ市民討議会の参加者の決定は、20歳以上の市民を対象に住民基本台帳から無作為抽出を行い、選ばれた1,000人に参加を呼びかける依頼書を送付するところから始めた。依頼を承諾した市民は、43人であり、たじみ市民討議会当日の参加者は37人であった。

### ○謝礼について○

参加者には責任ある仕事として取り組んで頂くために、謝礼を支給しています。参加者アンケートから参加者の謝礼の有無について見てみると「あったほうが良いと思う」が81%あり、全体として肯定的な意見が多く聞かれました。

### ○情報提供について○

1日目は、第1回目の話し合いのみを行い、2日目は、第2・3・4回目の話し合いを行った。

第1回目の討議テーマ「家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう」

情報提供者 岐阜県防災対策検証委員会 委員 岩井慶二次さん

第2回目の討議テーマ「防災マップを日ごろから活用するには」

情報提供者 多治見市役所 企画部 企画防災課 主査 伊藤祐司さん

第3回目の討議テーマ「地域の自主防災組織の課題を検証しよう」

情報提供者 多治見防災ネットワーク 可知 悟さん

第4回目の討議テーマ「地域と行政が災害時に情報を共有し連携を図るには」

情報提供者 恵那市役所 総務部 防災情報課 門野幸次朗さん

に行っていた。

### ○話し合いのルール○

話し合いは、7グループ（1グループ6～7人）で行われ、テーマごとにグループのメンバーを入れ替えた。

話し合いを行うにあたり、それぞれのグループに配置されたスタッフ（補助係）による話し合いのルールの説明や自己紹介の後、グループの全員が「まとめ係」「進行係」「発表係」となるよう役割を決めた。話し合いを行っている間に、各自の意見を付箋に記入して、「話し合いシート」に張り付けていき、それを分類整理して、投票の対象となる「まとめ」（3つ以内）と、「残したい意見」を「話し合いシート」に記入することとした。話し合いの時間は、スタッフによる説明やまとめ（「話し合いシート」の記入）を含めて60分とした。

#### ●まとめ係

付箋に書かれた意見を、メンバーの同意のもとに1～3つに分類し、グループの意見としてまとめる係

#### ●進行係

グループ内で時間管理を行う係

#### ●発表係

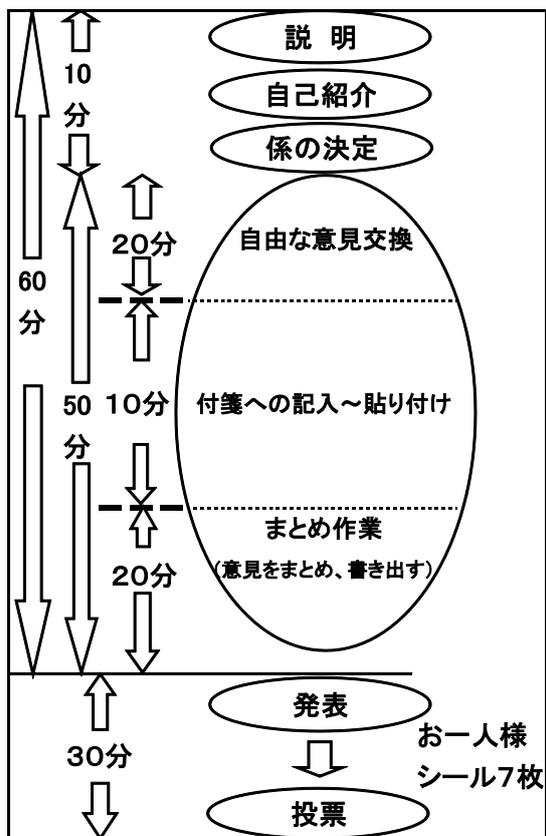
話し合いで出されたまとめ1～3と、残したい意見を発表する係

### ○発表と投票○

1回目～4回目の話し合いの後にそれぞれ発表と投票を行った。

投票は、テーマごとに一人につき7枚のシールを用いて、それぞれ参加者が適当だと思うアイデアに対して、自由に投票を行うこととした。

### 話し合いの流れ



グループ	メンバー
(話し合いのテーマを記入)	
作業スペース	
まとめ 1	投票欄
まとめ 2	投票欄
まとめ 3	投票欄
残したい意見	投票欄



【討議の様子】



## ■ 第3章 話し合いの結果と市民からの提言

### 3-1 討議テーマ1と話し合い結果と提言

#### ○市民からの提言○

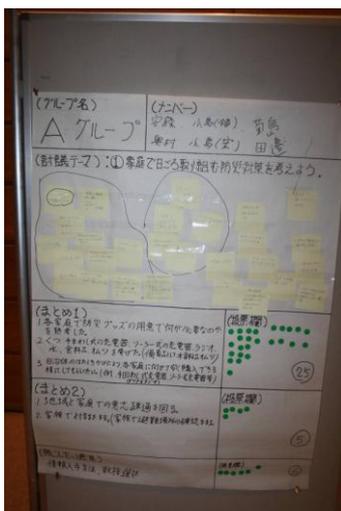
たじみ市民討議会の話し合いは4回行われたが、大変内容の充実したものであった。その結果である市民提案は、次のとおりである。

#### 1. 討議テーマ「家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう」に対し、以下を提言いたします。

市民は家庭における自主防災(自助)に関する意識は高く、その重要性も認識しています。しかし、漠然とした意識の中で具体的に何をどうすべきか、行動に移す事が出来ていません。

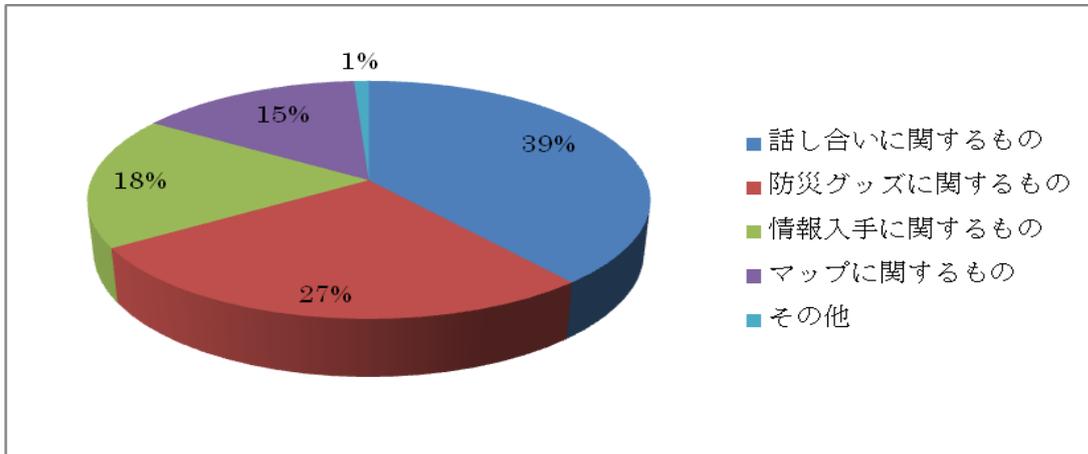
市民が防災について家族と話し合ったり、防災グッズの準備をしやすいような、行政の広報・掲示を求めます。

- ・日ごろ家庭で避難経路や集合場所、家族間の連絡手段など話し合いする時の具体的なポイントや防災についての解説を示した広報や呼びかけをするような施策を望みます。
- ・防災グッズとして最低限何をどのくらい備えておかなければならないのか、推奨版・標準型の提示と、購入しやすい施策の推進を望みます。
- ・災害情報の入手方法、伝達手段の周知を望みます。



【市民討議会の様子】

## ◎テーマ1.【まとめ意見から見えてきたこと】



### ●話し合いに関するもの

家庭内での意識の高揚、情報共有の重要性を感じている。家庭で避難経路や集合場所、連絡手段の確認を行ったり、出来れば模擬体験もしてみたい。

### ●防災グッズに関するもの

日ごろの防災グッズの必要性を認識している。日ごろから防災グッズを用意して消耗品や経時劣化製品については点検見直しも必要である。但し、具体的に何をどれくらい準備していいのかわからない。家具の転倒防止に多くの関心があった。

### ●情報入手に関するもの

情報の入手に関する不安を多くの方が持っている。

発災時、情報入手については知識が乏しく、具体的な情報の入手手段やインフラが良く分かっていない。

### ●防災マップに関するもの

使い勝手についての提案もある。

家庭内、地域の防災マップが必要との意見がある。

### ●その他

防犯用「飛散防止フィルム」について要望。

町内会未加入世帯への災害の助け合いについての意見。

討議テーマ1 「家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう」

いただいたご意見		得票数	計	得票率			
○家族内での話し合いに関するもの							
地域と家庭での意思疎通を図る 家族で対話をする（家族で避難場所の確認をする）	5	64	39%				
家族との情報共有 避難方法・連絡手段の確認	3						
災害が過ぎるとその時は災害に対する意識は高くなるが、過ぎてしまうと意識も低くなるので常日頃、家庭内で災害に対する備えと話し合い防災に対する意識を高める努力をする	14						
地震、水害それぞれの災害に応じた避難経路、集合場所を家族と話し合っ て決めておく	16						
日ごろ、家族と時間帯や細かいシミュレーションを想定して、どこに避難す るかなどを話し合っ、疑似体験を行う	26						
○家庭での防災グッズに関するもの							
1.各家庭で防災グッズの用意で何が必要なのかを熟考しました。 2. くつ、手まわし式の充電器、ソーラー式の充電器、ラジオ、水、食料 品、オムツを挙げた（備蓄品として水、食料品、オムツ） 3.自治体のはたらきかけにより、各家庭に向けて安く購入できる様にし てほしい（例、手まわし式充電器、ソーラー式充電器等）（ダイナモラ ジオ）	25	44	27%				
①非常持出袋の整備 ②家族で避難場所の話し合い ③命の笛を持つ	4						
自助の範囲内での災害対策 備蓄、家具転倒防止など	2						
自分の命を守るため、家具転倒防止を必ず行う 避難時の持ち出し物の確認及び防災袋等の用意をする	6						
家具の転倒防止対策（倒れにくくする。重い家具を減らす）	2						
日ごろ自分に必要なものを自分の近くや倉庫に置いておく グッズごとに見直しの周期を決め、カレンダーなどで管理する	3						
飛散防止フィルムを外からは割れないが内からたたけば割れるのが欲しい	2						
○情報の入手に関するもの							
情報入手方法、取捨選択	6				30	18%	
災害について、事前の情報収集手段を考えておく （防災マップ、市の緊急メール登録など）	6						
緊急メール知らない人が多い（緊急メールの重要性のアピール） 市の広報で特集・地区のイベントで紹介する	18						
○ハザードマップに関するもの							
家庭内ハザードマップの作成→地域版に活用	24	24	15%				
○その他							
区に属していない地域は災害時の配給されないのではないのでしょうか 避難地域の見直し避難するまでに危険があり避難が困難な場合がある	1	1	1%				
合 計		163	163	100%			

### 3-2 討議テーマ2と話し合い結果と提言

#### 2. 討議テーマ「防災マップを日ごろから活用するには」に対し、以下を提言いたします。

市民は『地域版』『家庭版』、その他子供や生活弱者を意識した、それぞれの防災マップが必要と考え、市民が主体的に作成する必要性を認識しています。

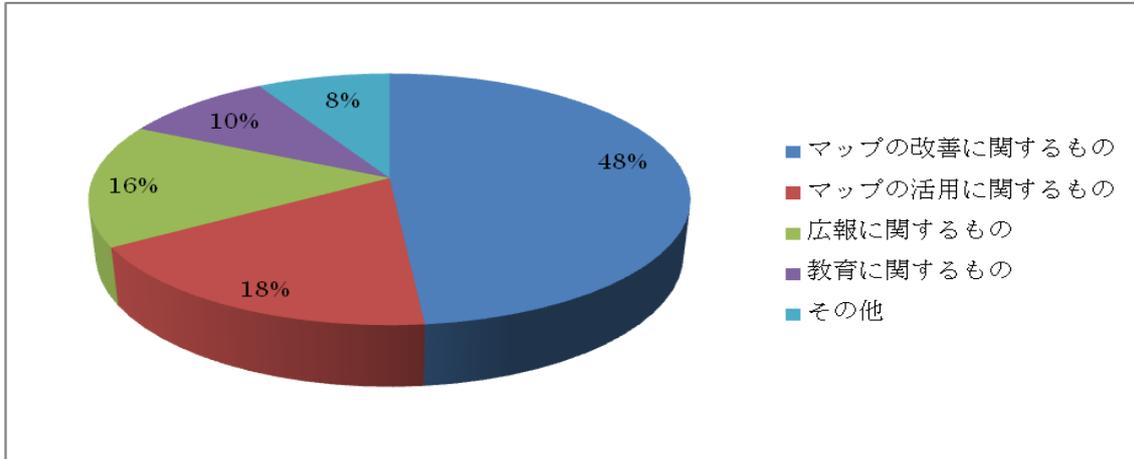
行政と市民が協働して個別のマップが作成できるような施策と、目に留まる場所へ掲示すること、そして災害に対する市民の意識が高揚するような施策を求めます。

- ・区、校区別に市民と行政がお互い協力して、地域住民が携わった防災マップが作成できるような施策の推進を望みます。
- ・防災マップには過去の経験や、ハザード、避難経路、集合場所などが記載できるよう工夫を望みます。
- ・地域の公共・商業施設にその地区の防災マップを掲示して、防災に関する啓蒙、周知することを望みます。
- ・子供用ハザードマップや学校教育の中で防災マップの学習、登下校で危険個所の確認をしたり、楽しく学べる（スタンプラリー等）防災マップを作成する等、災害に対する意識が高揚するような施策を望みます。



【討議の様子】

## ◎テーマ2.【まとめ意見から見えてきたこと】



### ●マップの改善に関するもの

市提供のマップはそのままでは実用性に乏しく「家庭版」「地域版」「子供用」に改善する必要性を感じている。

校区別に子供用にマップをアレンジしたい。

過去の災害事例を防災マップに反映すればそれが参考になる。

地域と行政と協働して地域、校区ごとの独自のマップを作成する必要がある。

避難ルートや家族の集合場所を書き込めるように出来ればより実用性が増す。

家族用、個人用のマップが必要。

公共施設や商業施設に掲示しておけば利便性も増し、意識も啓蒙出来るといった意見があった。

### ●広報に関するもの

マップの認知度が低く周知の必要性を感じている。

公共施設や商業施設に掲示しておけば利便性も増し、意識も啓蒙出来る。

転入者にマップの配布をしてほしい等の意見があった。

### ●教育に関するもの

学校の登下校時において危険個所の確認を行い、指導教育をする

### ●その他

県立病院、市民病院は災害の被災確立の低い場所が望ましい。

雨水浸透柵や里山の整備を促進して保水能力の向上をお願いしたい。

討議テーマ2 「防災マップを日ごろから活用するには」

いただいたご意見		得票数	計	得票率
○マップの改善に関するもの				
ハザードマップの改善・過去の被災状況を載せる・地元住民の声（危険箇所）危険場所の看板を立てる	2	82	46%	
過去に起きた災害を参考にハザードマップ作成の為に市民アンケートを行い、見直しをしていく（地域別マップや土砂崩れがおきやすい場所のマップを作成・判断基準を明記する）	23			
①ハザードマップの改善 ア 校区別に防災マップにする イ マップのプリントアウトサイズ ウ H23.9.20 浸水状況をマップに示す。 ②地理構造の分る古地図を配ってほしい 地すべり地域などのことも明記すること。 橋を明記して分かりやすくしてほしい	6			
防災マップを見易いところに掲示して、家族・近所の人と話し合う 話し合った内容を基に、地域独自の防災マップを作成する 防災拠点をどこにするか 誰もが見易い防災マップ 昔から住んでいる方の知識を活用	12			
今のハザードマップは利用性がない。・身近ではない ・見にくい ・実用的ではない→理由 町内（地域）と行政が一緒になって、詳細な学区ごとのハザードマップを新しく作成する 生活弱者の視点で作る 地域河川についても表示する	22			
活用しやすいマップ形式変更を要望します。○データの更新 ○過去災害実例（写真掲載） ○車移動を想定したマップ ○避難ルート・家族の集合場所を書き込める様式（メモ欄など）	16			
身近な場所の危険な所を把握しておく 自分の土地の状況を認識するに役立てるが良い（避難ルート）	1			
○マップの改善・活用に関するもの				
子供用ハザードマップ（校区別）を作る スタンプラリー形式の地図を作る	28	30	17%	
ハザードマップを参考に危険な場所を家族で確認し、自分なりのハザードマップを作っておく 意識づける為見える所に貼っておく	2			
○マップの広報方法				
配布方法・メール配信・ホームページに情報を掲載する 転入者には住民票と一緒に配布する	5	27	15%	
①ハザードマップの入手（年寄世帯など、どうやって入手するか等） ②学校と公共施設に置く（掲示する）	5			
ハザードマップを活用していく方法 子供に対しては、登下校で危険な場所を確認をして、意識を高める	3			
配布方法について要望します ○ゴミカレンダーとセットにする。 ○商業施設で掲示（バロー、ピアゴ、各コンビニ等） ○初回は全戸配布、その後は各自取込→取込のため周知徹底をはかる（町内や学校で取込方法の指導）	14			
○マップの広報・活用に関するもの				
商業公共施設等に防災マップを掲示 広報で紹介、町内会等で話し合い 転入者への防災マップ配布←防災マップを広める	14	16	9%	
（書き込める様式になれば）・各家庭、各地域でマップの更新が出来る。・各家庭で目に入る場所に置く・貼る（冷蔵庫など）	2			
○教育に関するもの				
小・中学校の教育で防災マップの意識づけをしていく	9	15	8%	
転入者への防災マップ配布	6			
○その他				
病院の場所がなぜ川の近くにあるのか？ 安全な場所に移転して欲しい 雨水浸透マス対策と里山の整備で保水能力をアップさせる	10	10	5%	
合 計		180	180	100%

### 3-2 討議テーマ3と話し合い結果と提言

#### 3. 討議テーマ「地域の自主防災組織の課題を検証しよう」に対し、以下を提言いたします。

組織率が高いとされている自主防災組織が地域住民にその存在意義、活動内容が十分理解されているとはいえない実情があるので住民にその意義を認識させ自主防災活動への積極的な参加を求める為、小、中学校と地域の自治会が連携して防災に関するイベント、防災訓練ができるような行政の指導を望みます。

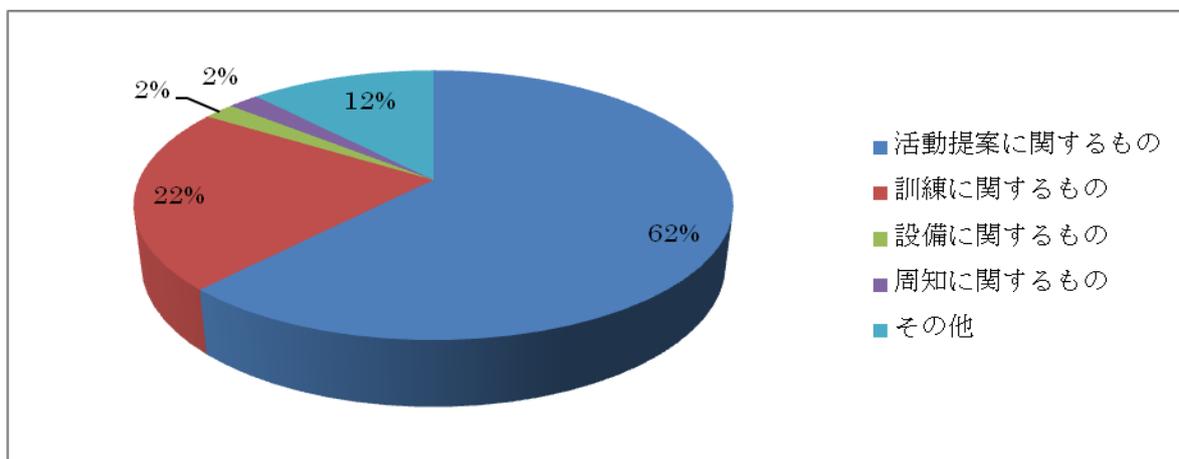
**自主防災組織が地域住民にその存在意義、活動内容が十分理解されているとはいえない実情があるので住民にその意義を認識させ自主防災活動への積極的な参加を求める為のアピールが必要であり企画や活動の整備を求めます。**

- ・自主防災組織の「活動発表」の場を創出し、表彰制度による活動の活性化を図るなどの施策を望みます。
- ・小、中学校の防災訓練は、自治会も共同で実施するなど参加率向上のための施策と実効性のある具体的な企画、指導を望みます。
- ・自主防災組織を世代別・機能別組織に編成することにより、参画機会の拡大と活動の多様化を望みます。



【討議会の様子】

### ◎テーマ3.【まとめ意見から見てきたこと】



#### ●活動提案に関するもの

自主防災組織の認知度や活動の参加率が低く、存在や活動のアピールが必要と考えている。

学校単位で子供を中心に参加型イベントがあれば参加しやすい。

活動内容を発表する「場」を創設すれば活性化が図れるのではないかと。

活動を町内会の行事に組み込めば住民との交流が図れる。

持ち回りではなく固定の組織としてモチベーションの向上を図り、活性化を促すべき。

世代別、年代別、機能別の組織編成も一考したい

アマチュア無線協会と連携したり、防災フェアを企画すれば参加しやすくなる等の意見があった。

#### ●訓練に関するもの

訓練の必要性は認識しているが参加する機会や企画を工夫すれば参加しやすいと考えている。

訓練内容を実効性のあるものや、魅力ある企画にすれば参加しやすい。

#### ●設備に関するもの

地区によっては緊急時に必要な倉庫の設備が少ない。

#### ●周知に関するもの

実体がよく何なのか解らない。

#### ●その他

防災訓練のアピールが必要であり、消防祭の復活も望む。

討議テーマ3 「地域の自主防災組織の課題を検証しよう」

いただいたご意見		得票数	計	得票率		
○活動提案に関するもの						
	<防災組織を活性化させるには> 活動報告を発表する場を作る 報告を義務付け、活動を活性化させる 回覧板など 防災組織を機能させるために、市から自治体へのトップダウンの指導が必要	16	113	62%		
	防災倉庫の内容を点検すること ・アマチュア無線協会を利用する 救急救命をPRする	7				
	やらされ感のある自主防災組織から使命感の持てる組織づくりのため 時間にゆとりのある人たちを中心に固定化された自主防災組織を構成する(シルバー世代 等)	10				
	自主防災組織が訓練のための組織にならないよう大雨・台風時に実際に活動する機会を作 る	6				
	<町内組織としてやること> 一斉清掃日のように防災訓練も町内会の行事に組み込む(清掃日の日に訓練も行う) 町内会の交流強化する(主婦の方を対象としたお茶会、町内と子供会が協力した訓練) 若い方も町内会へ参加できるよう親から子へ必要性を伝える	11				
	防災フェアなど参加したくなる企画 防災訓練(地区毎に年1回開催できるように)	5				
	地域に対する表彰制度の採用	8				
	存在の危機→世代間の隙間を埋める為、小学校区で子供を中心に親子参加型で新しいイベ ントを行ってみる。 地震体験車と呼ぶ。・消火活動やヘリコプターと呼ぶ・非常用トイレ・非常食の体験	19				
	1) 町内会単位で自主防災組織の明確化 ・・・ マニュアルを整備する→配布する ・・・ 町内の組織図、委員の仕事の内容 2) 町籍簿作成にあたって個人情報の一元化をする ・・・ 福祉課や民生委員の持っている情報を共有できるしくみ	18				
	婦人の防災組織を作る 高校生の自主防災組織を作る 夜間の防災訓練	10				
	1. 自主防災組織が実質的に機能していない 2. 目的ごとの組織サイズの適切、個人情報保護法の壁等	3				
○訓練に関するもの						
	小・中学校の防災練習に自治会の訓練を巻き込む	20			40	22%
	住民が参加できる内容の訓練の実施 扉をやぶる実験・地震体験車・シューターの体験・学校で地元民を含めた訓練 放水体験・爆発体験・天ぷらの発火実験	20				
○設備に関するもの						
	地区によっては緊急時に必要な倉庫が少ないようである。もっと設置してほしい。	3	3	2%		
○周知に関するもの						
	<防災組織はどのようなものか？> 実体が良く知られていない 役員のための参加になっている	3	3	2%		
○その他						
まとも1	<市役所へのお願い> ・五つの班の役割のマニュアル化(町内への配布) ・組織を作るときのマニュアル化(例えば、看護師の資格のある人は救出・救護班、消火 栓の設置されている家の人が消化班・・・) ・五つの班の名札を作成する(統一したもの) ・防災訓練の宣伝・消防祭の復活	19	24	12%		
まとも2	自主防災組織の広報活動 ・自ら進んで関わりを持つ・被災地区の自主防災組織の対応を聞く	4				
まとも2	1. 町内会のつながりを、もっと蜜にすべき 2. 個人・世代間の意識の違い	1				
合 計		183	183	100%		

### 3-2 討議テーマ4と話し合い結果と提言

#### 4. 討議テーマ「地域と行政が災害時に情報を共有し連携を図るには」に対し、以下を提言いたします。

市民は『防災無線』の他に行政からの伝達手段に多様性を求めており、また、発災時には市民から行政への情報発信も重要であると考えています。そして、相互の情報授受手法に一考を要すると考えます。

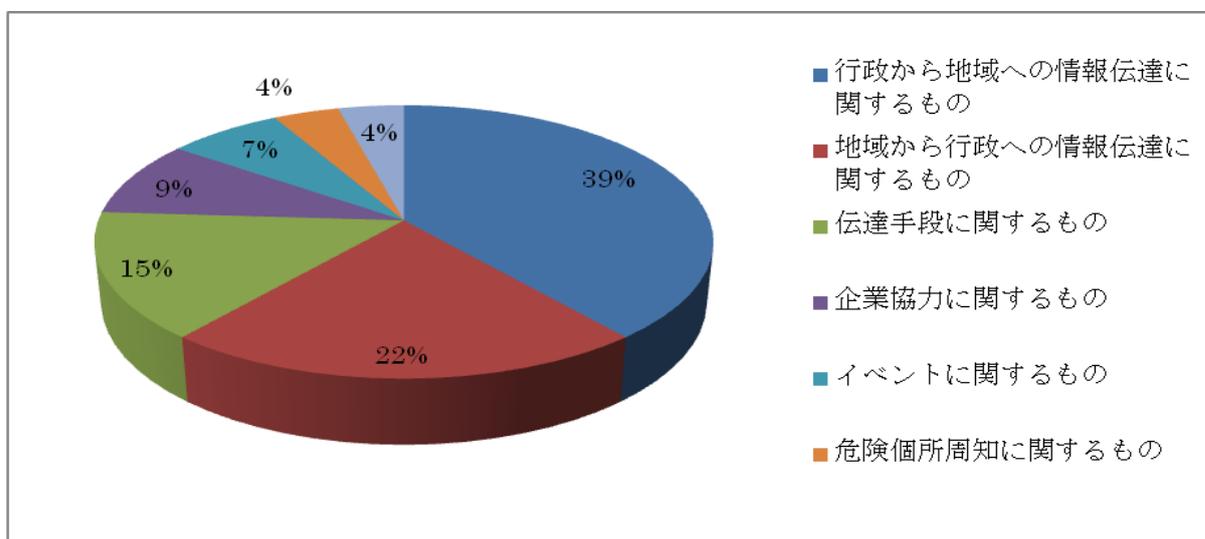
**発災時には市民から行政への情報発信も重要である為、市民と行政の相互の情報授受手法の整備を求めます。**

- ・防災無線は場所によって、聞き取りにくい場合があるので、設置場所や放送手段の改善を望みます。
- ・迅速な情報伝達手段として、エリアメールやTV・ラジオ・防災電話・ツイッターなど多様なツールを活用して利便性の向上、電子機器が使えない場合としての自転車等の設置を望みます。
- ・リアルタイムな現場の情報を市に集約し、的確でタイムリーな対応を可能にするため防災モニター制度の創設や、市のホームページへの書き込み、ツイッター等の活用等の施策を検討、推進することを望みます。
- ・商業施設等での緊急メールアドレスの掲示、地元企業と発災時の協力を旨とした協定を結ぶことを望みます。



【討議会の様子】

#### ◎テーマ4.【まとめ意見から見えてきたこと】



##### ●行政から地域の情報伝達に関するもの

防災無線の他に行政からの情報伝達手段に多様性を求めている。防災無線は聞き取りにくい場所があり改善が必要である。情報取得手段としてエリアメールやTV、ラジオ、ツイッター、防災電話等多様なツールを活用して利用しやすくしてほしい。

隣接自治体や道路管理者、国の機関とも連携してほしいという意見もあった。

##### ●地域から行政への伝達手段に関するもの

ツイッターの活用やホームページへの書き込みができればリアルタイムに情報が市に集約出来対応が早くなるのではないのかという意見も出た。行政は現場の状況を的確に把握し、減災効果を上げる為、「防災モニター」制度の創設を望む。

\*「防災モニター」・・・市民の方、企業の方にモニターになって頂き、災害時、現場の最新情報を市に提供する。

##### ●その他

企業と提携し、発災時協力関係を構築してはどうかという意見も出た。

防災アカデミーの企画、危険個所に看板設置、防災養成の施策を検討等。

討議テーマ4 「地域と行政が災害時に状況を共有し連携を図るには」

いただいたご意見		得票数	計	得票率
○情報の伝達手段に関するもの《行政から》				
<p>&lt;市からの情報提供について&gt;</p> <p>1.広報を家の中で聞けるようにする ※独居老人</p> <p>2.広報の聞き取りにくい地域の改善</p> <p>3.エリアメールの普及</p> <p>4.行政として必要（欲しい）な情報の内容を確立して欲しい 例えば避難所からの物資応援の要請など被災後の被害状況</p>	19	74	39%	
<p>情報収集手段の拡充を要望します。</p> <p>TVのデータ放送でも見ることができる（FM PiPi AMラジオでも）</p> <p>市の公式ツイッター配信</p> <p>広報無線の数と位置の見直し</p> <p>公共施設での情報提供（学校、公民館、図書館、病院）</p> <p>他県、他市との情報共有、連携</p>	19			
<p>災害ダイヤルを作り、周知させる</p> <p>FMPiPiやオリベチャンネル等により情報をリアルタイムに流す</p>	6			
<p>行政から市民へ</p> <p>防災無線のフル活用（地域ごとのきめ細かい情報提供）</p> <p>多治見市緊急メールの普及促進</p> <p>防災電話（希望者）の整備</p> <p>情報は①事実を②分かりやすく③スピーカーに④くり返しアナウンスしてもらう</p>	16			
<p>隣接市町村、道路管理者との連携（大雨、雪などの時の対応）</p>	9			
<p>防災無線が聞きずらいためマスメディアとの連携活用、 おりべ、有線、FM PiPiをもっと広範囲で利用する</p>	5			
○情報の伝達手段に関するもの《地域から》				
<p>&lt;地域からの情報提供について&gt;</p> <p>1.避難所に行政への連らく方法を明記</p> <p>2.避難所に必要な情報項目の明記</p> <p>3.通信機器が使えない時の方法としてのろし、自転車設置</p> <p>4.個人に携帯用にマニュアルカード（対応基準を記されたもの）の作成</p>	10	41	22%	
<p>連絡手順の明確化を要望します</p> <p>地域ごとに情報を集約できる場所をつくる （公民館、学校、ないところは商業施設でも 地域の避難所へ集める） そこから市へと情報を流す</p> <p>窓口をバンクさせない</p>	8			
<p>市民が情報を提供できる体制作り（ツイッター、ホームページの書きこみ）</p> <p>窓口を周知</p>	12			
<p>市民から行政へ</p> <p>個人からの情報提供システムの確立</p> <p>防災モニター制度（事前登録）</p>	11			
○情報の伝達手段に関するもの				
<p>ア ハザードマップになど携帯ショッブ緊急メール告知</p> <p>イ 回覧板、児童館、公民館やバローなど商業施設で緊急メールアドレスを貼っておく</p> <p>ウ 市民からの情報伝達</p>	18	28	15%	
<p>災害時の強化 情動的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政レベルのツイッターの解説</li> <li>・FM PiPi 災害時番組の強化</li> <li>・近くに住む人（モニター）からの情報入手</li> </ul> <p>人的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災箇所に市職員・防災士・消防士などがすぐ現場に行って監視してもらう</li> </ul>	10			
○企業協力に関するもの				
<p>一人で逃げるのではなく、近所の人（体の不自由な方、年配の方）にも声をかける 危険箇所近くの企業の方に防災士資格を取得してもらえらるようにして、 有事の際はそなたたちにも現場に行ってもらおう。</p>	16	16	9%	

○イベントに関するもの			
市主催の防災アカデミーの企画、開催	14	14	7%
○危険箇所周知に関するもの			
平時の強化 被災しやすい場所に看板を設置 事前にメール登録することにより、有事の際メール配信 にて危険箇所情報・危険箇所写真など受け取れる	8	8	4%
○その他			
防災メール登録、ホームページ確認、防災士の養成、自主防災組織の強化、充実	2	7	4%
被災状況時個々にリーダー意識を持って助け合う為に災害 のシミュレーションを試みる	2		
①他自治体の好事例の研究と採用 ②国交省、NEXCOからメールなり情報をしいるにはどうしたら良いか	3		
合 計	188	188	100%



## ■ 第4章 たじみ市民討議会の検証

### 4-1 たじみ市民討議会の有効性

#### ○たじみ市民討議会の有効性

たじみ市民討議会は、参加者の無作為抽出や参加者への謝礼の支払いなど特徴とするドイツの市民参加の手法であるプラーヌクスツェレに学びながらも、今回多治見市において実施するにあたり、市との協定の締結や多治見青年会議所・実行委員会による企画・運営など、さまざまな工夫を行った。

今回の取り組みの最大の成果は、たじみ市民討議会への参加を承諾し、すばらしい話し合いと質の高い提案を行った市民に出会えたことだといえる。

#### ○効果のまとめ

検証・評価の結果、次のとおり、たじみ市民討議会の効果が明らかになった。さらに、参加を承諾し、あるいは都合がよければ参加したいという市民が予想を超えて多数あり、多治見市においては、この手法を継続して実施できる条件を備えていることが証明された。

##### (1) 質の高い提案

参加者の質の高い話し合いにより、話し合いの結果である提案の内容が、市民や地域で実施すべき課題と行政で実施すべき課題とが区別されており、それぞれ実現可能性が高いものとなっている。このことから、多治見市の施策に反映すべき内容を備えた質の高い提案が期待できる。

##### (2) 参加者の高い満足度

参加者アンケートに示されるように、たじみ市民討議会の参加者の@@98%が、参画意識が持てた、行政に関心が持てたと回答しました。また今後、市民討議会や他の市民参加の試みに参加したい、および都合があれば参加したいという参加者が@@98%であったことから、今後この取り組みを継続することが期待される。

##### (3) 参加意識の高まり

参加者アンケートにおいて、@@「自分から参加する場を求めることが無かったのでよい機会を与えてもらった」「私たち市民ができることから実行していくことが大事」などの意見が多数寄せられた。このことから、たじみ市民討議会の取り組みにより、自分たちのまちは自分たちがつくるという参加意識が高まったといえる。

##### (4) 参加を承諾した市民の多さ

無作為抽出により、1,000通参加依頼書を送付し、43人という多数の市民から参加の承諾

を得たため、多治見市においては、たじみ市民討議会による市民参加の手法の実施が今後も可能であるといえる。

#### 4-2 たじみ市民討議会後の取り組み

##### ○中間報告会

中間報告会が7月19日に開催され、市民提言として提出する提言書の方向性を参加者に確認してもらう機会として中間報告会を開催した。中間報告会では、話し合いの結果を分析してまとめたものを中間報告書として参加者に提示した。分析結果の報告とともに、分析の方法とルールを明確にしておくことが大切であると考えた。なお、分析結果を説明し、質疑を行った上で提言書の内容が参加者に了承された。

##### ○報告書の作成

たじみ市民討議会の実施報告書の構成については、(社)多治見青年会議所において、早い段階から検討されていたが、「話し合いの結果」と「手法の効果の検証・評価」を含め編集することとした。アンケート資料を使って客観的に分析することで、この報告書を充実させる内容としました。8月下旬、古川市長へ報告書を手渡しさせていただきます。報告書を市に提出する目的は、普段行政に対して意見を述べる機会の少ない市民たちの生活をする上で生まれる知識やアイデア、感覚を行政の政策立案に反映させることにあります。

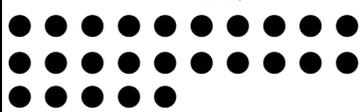
##### ○事後のフォロー

討議参加者は、報告書を提出した後の多治見市の対応について、当然大きな関心を持っていると思います。

報告書が具体的にどのような形で反映されるか実行委員会が引き続き見守っていきたいと思います。



○討議シート

A	グループ	安藤	小島(領)	菊島	奥村	小島(宏)	田邊	
<p><b>討議テーマ①</b> 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう</p>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・くつの用意（移動できるように）</li> <li>・各家庭での最低限の備え充実（スリッパ、防災グッズ、水）当の備蓄</li> <li>・寝室にスリッパ（くつ）など出来る事から小島さんの意けん</li> <li>・防災グッズの用意</li> <li>・車の中に（ペットボトル）紙オムツカンパン、チョコレートを常備しておく</li> <li>・防災無線の活用もっと身近に</li> <li>・乾電池、懐中電灯、ラジオ、けいたい電話使用が有事で十分使えるようにする</li> <li>・非常食用意</li> <li>・生活必需品</li> <li>・手まわしのじゅう電器ソーラーなど地区で購入できると良い</li> <li>・小学生の送り迎えの日頃のどの様にするのか学校の地区でようお願いしてもらおうと良いと思います</li> <li>・各家庭で防災グッズの用意で何が必要なのかを熟慮した くつ、手まわしの充電器、水、ソーラー、ラジオ、備蓄品として水と食料、オムツ</li> </ul>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からの意識（忘れた頃にやってくる）</li> <li>・地域の方々との意しそつうができるようになると良い</li> <li>・家族の情報共有意思疎通</li> <li>・家族でひなん場所の確にんをする</li> <li>・家族で対応する（意思の統一）会話により</li> </ul>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報入手方法</li> <li>・家族でラジオ、かいちゅう電灯、水最低でも水くらいはそろえておく事</li> <li>・避難場所の共有、有事の際の集合場所の共有</li> <li>・帰るか帰らないかの判断</li> <li>・防災マップを家族の目につく所にはって置く事</li> <li>・ラジオ、FMビビを聞くと良いと思います</li> <li>・防災ムセンの情報をお願いします</li> <li>・帰路の取捨選択、どこから情報を得るのか、緊急時携帯PCは無力、情報を判断するのは最終は自分</li> <li>・2地域の危険箇所の認識（予測）</li> <li>・地域内で情報共有</li> <li>・ツイッターで地域住民からの生の情報を流し、近隣住民にも役立つものとする</li> </ul>								
<p><b>まとめ1欄</b></p> <p>1.各家庭で防災グッズの用意で何が必要なのかを熟考しました。 2. くつ、手まわし式の充電器、ソーラー式の充電器、ラジオ、水、食料品、オムツを挙げた。（備蓄品として水、食料品、オムツ） 3.自治体のはたらきかけにより、各家庭に向けて安く購入できる様にしてもらいたい。（例、手まわし式充電器、ソーラー式充電器等）（ダイナモラジオ）</p>		<p>投票</p> 						25
<p><b>まとめ2欄</b></p> <p>地域と家庭での意思疎通を図る 家族で対話をする。（家族で避難場所の確認をする）</p>		<p>投票</p> 						5
<p><b>残したい意見</b></p> <p>情報入手方法、取捨選択</p>		<p>投票</p> 						6

\*注) 討議シートは、当日参加された皆様を書いて頂いた文章をそのまま記載させて頂きました。

B グループ	今井	河地	水野	涌井	廣地	英
<b>討議テーマ① 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭ごとに自分の家が何に弱いかを家族で話し合う。地震、台風、水害、土砂 e t c</li> <li>・家族との情報共有</li> <li>・緊急時の集合場所、連絡方法を確認しておく</li> <li>・地域の活動に参加する意識を家族間で持つ（避難くんれん等）</li> <li>・防災に付いて日常的に安全な場所とか動き方を話し合っておく</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災用具の準備・食糧飲料水の準備・食器棚等倒れやすいところを倒れないようにとめておく</li> <li>・頭の上にもおかない（寝る時に）⇒自分の命は自分で守る</li> <li>・『自分の身体（家族）の安全は自分で守る』の意識徹底</li> <li>・災害が起きた時のシュミレーションをする・家庭でのハザードマップを作る</li> <li>・どこが安全な場所かの確認</li> <li>・防災グッズを常備し、定期的にメンテナンスする</li> <li>・『自助』より強い『自立・自己責任』の意識を！</li> </ul>						
・地域の危険箇所を家族で共有しておく→家庭のハザードマップ作成						
<b>まとめ1欄</b>		投票				
家族との情報共有 避難方法・連絡手段の確認		● ● ●				3
<b>まとめ2欄</b>		投票				
自助の範囲内での災害対策 備蓄、家具転倒防止など		● ●				2
<b>残したい意見</b>		投票				
家庭内ハザードマップの作成 →地域版に活用		● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●				24

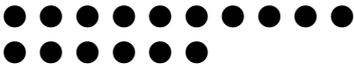
<b>C</b> グループ	田中辛香利 和田智恵美 川村美暉 小池正治 飯島博文 小木曾公彦	
<b>討議テーマ① 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自助共助等の言葉が一般的に浸透していない</li> <li>・ 防災意識を高める取り組みの機会を増やす。</li> <li>・ 災害が過ぎるとその時は考えるが過ぎてしまうと忘れてしまいますので意識を常に持つ</li> <li>・ 自助という部分で自治会などにまかせている所があるけど、子供のおむつや食料はまとめておいてある</li> <li>・ 避難するか自宅にとどまるかは自己責任のところがあるが、家族内では決めておきたいと思った</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家具の転倒防止を設置している人は少ない</li> <li>・ 家具の転倒防止（固定）</li> <li>・ 自宅での防災準備①家具などの耐震準備②飲用水の常備③食料の常備</li> <li>・ 避難時の持ち物の確認</li> <li>・ 日ごろから防災意識をもってある程度の防災袋（食料品、懐中電灯など）を用意しておく</li> <li>・ 避難場所、経路確認</li> <li>・ 自分の命を守るため自宅の耐震構造の確認</li> <li>・ 自分の身は自分で守らなければいけないので家の安全、通勤路などのひなん場所確認しておく</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難先、ハザードマップの提示張り出しの強化</li> <li>・ ハザードマップは知らない人は多いので勉強する</li> <li>・ 情報の手に入れ方の確認</li> </ul>		
<b>まとめ1欄</b> 災害が過ぎるとその時は災害に対する意識は高くなるが、過ぎてしまうと意識も低くなるので常日頃、家庭内で災害に対する備えと話し合い防災に対する意識を高める努力をする	投票 	14
<b>まとめ2欄</b> 自分の命を守るため、家具転倒防止を必ず行う 避難時の持ち出し物の確認及び防災袋等の用意をする	投票 	6
<b>残したい意見</b>	投票	

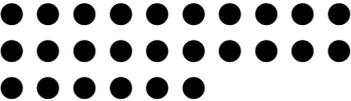
# D

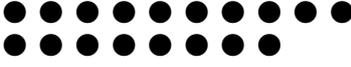
## グループ

松永哲一 青木義彦 小西文 権蛇早織 工村真一 宇田あや子 山下初代

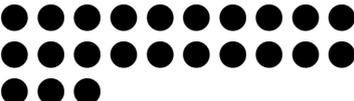
### 討議テーマ① 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう

<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の行動をある程度家族で決めておく、（目安を作っておく）</li> <li>・（家から避難所）実際の避難経路を確認しておく</li> <li>・災害発生時の対応を家族でシミュレーションする</li> <li>・地震、雨の時にひなんする場所をかえる</li> <li>・避難経路、場所家族で共有</li> <li>・家族で避難時の集合場所を決めておく</li> <li>・自宅にいるとは限らないので普段からいろいろな場所を想定して、考えておく</li> <li>・災害の種類に応じた避難場所の明示確認</li> <li>・災害によってひなんする場所を決める</li> <li>・災害にあった時の集合場所を家族と決めておく</li> <li>・地震が起きたらまず避難経路確保。玄関ドアを開ける</li> <li>・避難経路（場所）の確認</li> <li>・水害、地震等災害の内容により避難場所を合わせて決めておく</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に対して現場を調べる（弱点をしらべる）</li> <li>・ハザードマップの確認</li> <li>・普段から情報収集の手段を沢山持っておき活用する。市の緊急メールの登録など</li> <li>・災害時の道路状況等リアルタイムで情報を得られる手段を日頃から確認しておく</li> <li>・緊急メールの登録</li> <li>・断層の位置確認</li> <li>・情報収集と共有（家族、地域）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家具の転倒防止対策を家族とする</li> <li>・家具等倒れやすいもの危険なものをできるだけ無くす</li> <li>・自室内（自宅内）の家具を倒れにくいようにする</li> <li>・基本的なことだが家の中のダンスや本棚への対策をやる</li> <li>・重量のあり家具を極力減らす</li> </ul>	
<b>まとめ1欄</b> 地震、水害それぞれの災害に応じた避難経路、集合場所を家族と話し合っ て決めておく	投票  16
<b>まとめ2欄</b> 災害について、事前の情報収集手段を考えておく （防災マップ、市の緊急メール登録など）	投票  6
<b>残したい意見</b> 家具の転倒防止対策 （倒れにくくする。重い家具を減らす）	投票  2

E グループ	神戸	柴田	小池	大沢	中野	升田
<b>討議テーマ① 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓は開けれる様にしておく</li> <li>・家の中の通路をふさがない</li> <li>・飛散防止フィルムを外からは割れないが内からたたけば割れるのができたらいいです</li> <li>・台所から火災の時のため階段の煙探知器が鳴るようドアを開けて就寝している</li> <li>・飛散防止フィルムやった方がよいのか確認の上必要なら貼る</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間帯や細かいシーンを想定して再防災対策</li> <li>・家族で災害後どこで会ったりどのようにれんらくをとりあうのかを話し合う</li> <li>・家族で話し合い。その時どこに避難するか</li> <li>・集合場所を家族で話し合う</li> <li>・家族で年1回防災の日、賞味期限切れ食品を食べながら家族の避難訓練をする</li> <li>・二人家族で昼間でも余りガスを使わないで済むようにポットで沸している</li> <li>・家から外への逃げる処を決めておく</li> <li>・防災カレンダーを作ったら！</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時服用の薬等枕元に置いている</li> <li>・食料品や備蓄品は外に置くようにしている</li> <li>・普段の用意は身近に（ふえ、電灯、ラジオ、ケイタイ）</li> <li>・防災グッズの場所を覚えておく</li> <li>・防災グッズに命の笛を加える</li> <li>・防災グッズは外の倉庫に保存</li> <li>・ゆれたらすぐヘルメット防災ずきん（頭の保護）</li> <li>・体の保身にヘルメット座布団スリッパ等を用意</li> <li>・防災グッズの保管の仕方？</li> <li>・倉庫にも防災グッズを置くようにする</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災グッズの見直し（本当に持っていける重さか、もっと必要なものはないか）</li> <li>・衣替えの時着なくなった服やタオル等衣類を防災用にとっている</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろ自分に必要なものを自分の近くや倉庫に置いておく</li> <li>・グッズごとに見直しの周期を決め、カレンダーなどで管理する</li> </ul>	投票  <div style="text-align: right;">3</div>					
<b>まとめ2欄</b> 日ごろ、家族と時間帯や細かい趣味レシーョを想定して、どこに避難するかなどを話し合っ、疑似体験を行う	投票  <div style="text-align: right;">26</div>					
<b>残したい意見</b> 飛散防止フィルムを外からは割れないが、内からたたけば割れるのが欲しい	投票  <div style="text-align: right;">2</div>					

F グループ	古川	桐山	井戸	長岡	若尾	西森
<b>討議テーマ①</b> 家庭で日ごろ取り組む防災対策を考えよう						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多治見市緊急メールの活用</li> <li>・多治見市防災メールの登録</li> <li>・多治見市緊急メールを利用</li> <li>・多治見市の防災メールの登録</li> <li>・消火栓もうの充実</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の近所で日ごろから声をかけあう（いざという時に助け合えるから）</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の家具の配置見直し</li> <li>・応急手当の知識を見直す（けがをした時により長く命をつなぐため）</li> <li>・非常持出袋必要</li> <li>・命の笛の携帯</li> <li>・災害時全家族が全員家にいる時と外出時の避難場所を確認</li> <li>・「命の笛」を常に持っていること</li> <li>・寝る時、枕元にかいちゅう電気、ラジオを置いておく</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b>				投票		
①非常持出袋の整備            防災意識を持つ ②家族で避難場所の話し合い   ①と②を義務化したら ③命の笛を持つ                    どうか						
<b>まとめ2欄</b>				投票		
緊急メール知らない人が多い（緊急メールの重要性の市の広報で特集・地区のイベントで紹介する アピール）						
<b>残したい意見</b>				投票		
区に属していない地域は災害時の配給されないのではないのでしょうか 避難地域の見直し避難するまでに危険があり避難が困難な場合がある						



B グループ	宇田	升田	柴田	菊島	小木曾	権蛇
<b>討議テーマ② 防災マップを日ごろから活用するには</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の意見をハザードマップに取り入れていく</li> <li>・ハザードマップの分類が何を目安にしているのかを記入してもらう</li> <li>・（ハザードマップの作成に当たり）市民の意見を集約したより実行性のあるものを作る</li> <li>・市民から危険な場所の意見を集約してマップを作成する</li> <li>・ハザードマップが少し見づらい。腸内ごとでも作ってほしい</li> <li>・過去に起きた自然災害による被害状況をもとに、道路、建物、川、山等の防災マップを作る動きを入れるべき。「地域独自の防災マップ」</li> <li>・マップの基準を明確にしてほしい</li> <li>・土砂くずれが起きやすい場所の地図がほしい</li> <li>・ハザードマップを実際の被害状況から見直してもらう</li> <li>・市民にアンケートをとってもらってハザードマップを新たに作ってもらいたい</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩の際に危険な場所を見つけておく</li> <li>・常日頃から玄関台所等毎日の生活で居る時間を占める場所に貼っておくことを進める</li> <li>・ハザードマップを確認して実際の場をみておく</li> <li>・事故事例が発生した時に内容を充分家族で話し合う</li> <li>・市作成のハザードマップを自分なりのマップ（拡大・地域）に作り直す</li> <li>・マップを目安に日頃の通りの道の安全性を確認する</li> <li>・個人で危険場所を確認（マップを参考に）</li> <li>・ハザードマップを家族で確認する</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の教育の中で危険な場所を認識することに役立てる</li> <li>・（マップを玄関に貼るものもちろん）学校教育、家庭教育の中で子供たちに常に防災マップを意識させる</li> <li>・小学校、中学校などで活用の仕方を教える</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> 過去に起きた災害を参考にハザードマップ作成の為に市民アンケートを行い、見直しをしていく。（地域別マップや土砂崩れがおきやすい場所のマップを作成・判断基準を明記する）	投票  23					
<b>まとめ2欄</b> ハザードマップを参考に危険な場所を家族で確認し、自分なりのハザードマップを作っておく。意識づける為見える所に貼っておく。	投票  2					
<b>残したい意見</b> 小・中学校の教育で防災マップの意識づけをしていく。	投票  9					

C グループ	井戸	川村	小西	大澤	松永	飯島
<b>討議テーマ② 防災マップを日ごろから活用するには</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップをピンポイントに（校区事）</li> <li>・ハザードマップを詳しく分かりやすくしてほしい</li> <li>・全体のハザードマップではなく、地域ごとの危険・安全地区をのせる</li> <li>・見易い地図に、学校区別にしてほしい</li> <li>・地すべり地域も明記</li> <li>・橋を明記し分かりやすく</li> <li>・昔の原型を入れた地図（例 昔、田んぼ、池）</li> <li>・古地図を表示してほしい</li> <li>・小範囲の地理構造を市民に知らせてほしい</li> <li>・マップのサイズの考慮（A2サイズはどうか？）（あるいは細かすぎる？）</li> <li>・H23.9.20浸水状況をマップに示す</li> <li>・ハザードマップを見る機会を増やす。（貼り付け、地図の配布方法の考慮）</li> <li>・学校にハザードマップをけいさいする</li> <li>・マップの作り方 どんな方にも利用出来るものがない</li> <li>・ハザードマップの存在を知る</li> <li>・自分の土地の状況を認識するに役立ってるが良い（避難ルート）</li> <li>・身近な場所の危険な所を、はあくしておく</li> <li>・マップの被害予想と自分の住む地域の状況を照らし合わせてみる。</li> <li>・マップに自分なりに手を加える ・危ない場所 ・目印となる場所など</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b>			投票			
①ハザードマップの改善 ア 校区別に防災マップにする イ マップのプリンタアウトサイズ ウ H23.9.20 浸水状況をマップに示す。 ②地理構造の分る古地図を配ってほしい 地すべり地域などのことも明記すること 橋を明記して分かりやすくしてほしい						
<b>まとめ2欄</b>			投票			
①ハザードマップの入手（年寄世帯など、どうやって入手すること） ②学校と公共施設に置く（掲示する）						
<b>残したい意見</b> 身近な場所の危険な所を把握しておく。 自分の土地の状況を認識するに役立ってるが良い（避難ルート）						

D	グループ	小島	涌井	田中	古川	工村	田邊
---	------	----	----	----	----	----	----

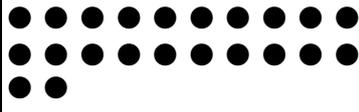
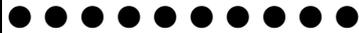
**討議テーマ② 防災マップを日ごろから活用するには**

- ・ 地区会などで地区に特化した独自のハザードマップを作る。昔から住んでいる方の情報がおりこめる
- ・ 地域ごとに独自の防災マップを作成
- ・ 地域ごとのハザードマップの作成 ・危険な場所等、  
(地域の人にしかわからない危険箇所があると思うので)
- ・ 地域ごとのハザードマップを町内で、作るように働きかけて見ては？
- ・ ハザードマップをみて、危ないという意識が持てるようなマップ作り
- ・ ハザードマップが地域でくばられているが、全員にしんとうしていかない様なので、  
どの様な形で皆さんに見てもらえるか？
- ・ ハザードマップの事を9月の防災月間の時に紹介する
- ・ 防災マップを見るきっかけをつくる（広報で案内する）
- ・ 防災マップを見るきっかけをつくる（町内会で機会をつくる）
- ・ 公民館や小学校等に貼ったりして、身近なものにハザードマップをする
- ・ ハザードマップは何なのか分からないと思うので、どうしたら、  
(ハザードマップの意味も知らせるべき)
- ・ 転入時にハザードマップを配布する
- ・ 転入者に防災マップを必ず配布
- ・ 転入した時に、必ずハザードマップを配ってもらう
- ・ 防災マップを見て家族・地域で話しをする
- ・ まず身近な所。確認し話し合う（家、近所、班）
- ・ 目に見える所に貼り、日頃から家族で話し合えるようにする
- ・ マップに表示されていないが町内等で危険な所があれば記入して活用する
- ・ ハザードマップを家族の人がみやすいところにはって危ない箇所の確認⇒家族で話しあう
- ・ 自分たちの地域は、自分たちで意見を出し合ったり、情報交換をしたりして地図をつくる
- ・ 防災のきょ点をどこにするべきか。若い方が良く利用するコンビニ、銀行のA T Mなど
- ・ ハザードマップが小さくて見にくいので、だれも見やすくして欲しい

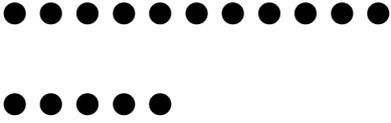
まとめ1欄	投票	12
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災マップを見易いところに掲示して、家族・近所の人と話し合う</li> <li>話し合った内容を基に、地域独自の防災マップを作成する ・防災拠点</li> <li>をどこにするか</li> <li>・ 誰もが見易い防災マップ</li> <li>・ 昔から住んでいる方の知識を活用</li> </ul>		
まとめ2欄	投票	14
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業公共施設等に防災マップを掲示</li> <li>・ 広報で紹介、町内会等で話し合い</li> <li>・ 転入者への防災マップ配布←防災マップを広める</li> </ul>		
残したい意見	投票	6
転入者への防災マップ配布		

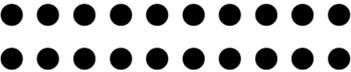
**討議テーマ② 防災マップを日ごろから活用するには**

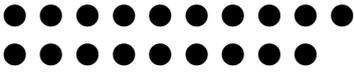
- ・自分の住まいのピンポイントな情報のマップが欲しい 公民館や避なん場所等
- ・1つのマップではなくて、学校、地域、施設、幼稚園などなどのその場に必要マップを作る
- ・行政目線ではなく、市民目線、弱者目線でマップ製作
- ・子供でもわかりやすいハザードマップ作成
- ・町内（地域）と行政がいっしょになって作る
- ・各自治体と連携し地元密着のマップが必要
- ・学区ごとのより身近なハザードマップを行政と町内会で作成する
- ・短いスパンでのハザードマップ配布
- ・川（大きな川ではなく）の近くの方に現在の状況がわかるように連絡網があるとよい
- ・学区ごとの詳しいハザードマップを作る（使える・実用的なもの）
- ・広報で配られた時は、見るが、その後は見ない事が多い為、自分の校区の災害マップが良い
- ・行政目線ではなく、子供や、お年より、しょうがい者の方々の避なん場所や  
ハザードマップがあるとよい
- ・ハザードマップ危険場所の確認
- ・水害についてシミュレーションではなくて、実際にあった災害を元にマップを作成した方がよい
- ・子供目線でも分かりやすい様な校区内のマップを作成する
- ・子供目線のマップがあると良い
- ・子供、お年よりもわかりやすいハザードマップに
- ・小学校、幼稚園などで立体的なハザードマップ作成、子供が興味をもつ
- ・川の近くに病院があり、行こうと思うとJRの橋げたがあり、水が出ると行けない  
なぜ川の近くに病院があるのか？
- ・保水能力アップのため、①里山の整備、シルバー人材の活用 ②雨水浸透マス対策の充実

<b>まとめ1欄</b>	投票
今のハザードマップは利用性がない。・身近ではない ・見にくい ・実用的ではない→理由 町内（地域）と行政がいっしょになって、詳細な学区ごとのハザードマップを新しく作成する。生活弱者の視点で作る。地域河川についても表示する	
	22
<b>まとめ2欄</b>	投票
ハザードマップを活用していく方法。子どもに対しては、登下校で危険な場所を確認をして、意識を高める	
	3
<b>残したい意見</b>	投票
・病院の場所がなぜ川の近くにあるのか？ 安全な場所に移転して欲しい。 ・雨水浸透マス対策と里山の整備で保水能力をアップさせる。	
	10

F グループ	神戸	小池	水野	小島	英	山下	奥村	
<b>討議テーマ② 防災マップを日ごろから活用するには</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップに災害の写真を入れる。</li> <li>・ハザードマップに写真を入れる。</li> <li>・防災マップにH23.9.20の危険箇所写真を貼り付けてもりこむ。→配布</li> <li>・今回の参加者もマップの存在知らない位 周知徹底が必要</li> <li>・マップを有料化し町内費で何とかする。</li> <li>・清そう活動と同様に定期的にハザードマップ（地域版）のメンテナンスを地区で取り込む</li> <li>・実際の災害を基にしたハザードマップがあるといい</li> <li>・実例を示して下さい。（現場写真）</li> <li>・防災マップをもっと啓もうする。（広報活動）</li> <li>・自分用のハザードマップを作成する。いくつかのルートを考える（夜間用）</li> <li>・水害、地震の他ロードマップ的なものがあると助かる</li> <li>・マップの不安をおぼえる。・マップの更新してほしい</li> <li>・各自が自宅で使えるハザードマップを作成する</li> <li>・防災マップにご家庭の有事の際の集合場所、避難ルートを書きこむ。様式挿入</li> <li>・自分の地域が危険だったら？</li> <li>・防災マップの更新をお願いしたい（昨年の水害を反映）</li> <li>・最新データに更新して</li> <li>・車で移動を想定したマップ作成（建設省）</li> <li>・我が家オリジナルハザードマップ</li> <li>・散歩しながら危険場所をチェックする</li> <li>・作ってどこに置く？（覚えてもらえない） たどりつけない</li> <li>・ゴミ収集の紙と一緒に配る。毎年（いっそくっつける なくさないように）</li> <li>・ゴミ収集のカレンダーに近くの地区の具体的なマップをつける</li> <li>・ゴミ収集カレンダーと一緒にハザードマップを付ける</li> <li>・配布を毎年にする（ごみカレンダーと連動）</li> <li>・防災マップを今のタイミングで全戸配布・あとは市のHPをアピールする。</li> <li>・初めて見た（認識度低い）</li> <li>・デパート等に配って見てもらえる様にする</li> <li>・ゴミ収集と同じように毎年配布する（セットで配布）</li> <li>・1回配布 その後は希望者が取りに行く</li> <li>・ハザードマップの印刷の仕方を指導する</li> <li>・ごみカレンダーにハザードマップを同封 翌年以降は広報で告知 データの更新</li> <li>・置き場所を考える</li> </ul>								
<b>まとめ1欄</b> 活用しやすいマップ形式変更を要望します ○データの更新 ○過去災害実例（写真掲載） ○車移動を想定したマップ ○避難ルート・家族の集合場所を書き込める様式（メモ欄など）						投票 ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●		16
<b>まとめ2欄</b> 配布方法について要望します ○ゴミカレンダーとセットにする ○商業施設で掲示（バロー、ピアゴ、各コンビニ等） ○初回は全戸配布、その後は各自取込→取込のため周知徹底をはかる（町内や学校で取込方法の指導）						投票 ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●		14
<b>残したい意見</b> （書き込める様式になれば）・各家庭、各地域でマップの更新が出来る・各家庭で目に入る場所に置く・貼る（冷蔵庫など）						投票 ●●		2

A グループ	井戸	権蛇	若尾	小島	田邊	山下
<b>討議テーマ③ 地域の自主防災組織の課題を検証しよう</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の存在が明確でない。知らせる方法があると良い</li> <li>・組織は知っているが、何をしているか分からない</li> <li>・自主防災組織がどのように機能しているのか不明</li> <li>・自分たちの町内でどのような自主防災をするべきかを町内会で話し合いをする機会を持つようにしてほしい。</li> <li>・町内の役員だけが参加するような避難訓練でないようにす</li> <li>・参加(在宅)者の掌握</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ごとの活動を消防団等でチェックする機能ができるとよい</li> <li>・組織の活動内容を回覧板でまわす(年間予定を役員になった人が相談し提出する)</li> <li>・防災組織を機能させるためには、市から自治会へのトップダウンの指導が必要</li> <li>・自主防災について活動報告を義務付け、自主防災活動を活性化させる</li> <li>・地域ごとの温度差があるので、それぞれの地域との交流し、情報交換する</li> <li>・町内に防災組織があれば、町内に文書等による回覧(徹底)</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災倉庫の内容を町内ではあく出来ると良い</li> <li>・アマチュア無線協会を利用して連絡を取り合う</li> <li>・防災倉庫の内容は大丈夫か</li> <li>・救急救命をPRしたら</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b>  <防災組織はどのようなものか？> 実体が良く知られていない。役員のみでの参加になっている。		投票  3				
<b>まとめ2欄</b>  <防災組織を活性化させるには> ・活動報告を発表する場を作る。報告を義務付け、活動を活性化させる。回覧板など ・防災組織を機能させるために、市から自治体へのトップダウンの指導が必要		投票  16				
<b>残したい意見</b>  ・防災倉庫の内容を点検すること ・アマチュア無線協会を利用する ・救急救命をPRする		投票  7				

B	グループ	大澤	川村	和田	廣地	小木曾	古川
<b>討議テーマ③ 地域の自主防災組織の課題を検証しよう</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やらされ感のある自主防災組織から使命感の持てる組織へ！</li> <li>・仕事を終えた人、地域にコウケンしたい人を募る</li> <li>・シルバー世代を中心として自主防災組織を構成する</li> <li>・防災組織の中核を若い人より家にいる時間が多いから、シルバー世代で構成する</li> <li>・高齢化とゆうのを活用して地域活動を行ってもらう。出来る人でやってもらう</li> </ul>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の授業で父兄を巻き込んでやる</li> <li>・小・中学校で災害訓練を主催する 親子で参加する。地域で訓練を行うより参加が多いと思われる</li> <li>・小・中学校主催の防災訓練に自治会が参加する</li> <li>・学校と協力して校区全体で防災活動にとりくむ</li> </ul>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー世代を活用し、隊員を固定化することを検討すべし</li> <li>・訓練のための組織ではなく、大雨・台風など年に数回実際に活動する機会を無理やり作る (そのためにもシルバー代の活用)。</li> <li>・参加できるように訓練時間の設定と回数の増加(少人数でも)</li> </ul>							
<b>まとめ1欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やらされ感のある自主防災組織から使命感の持てる組織づくりのため</li> <li>・時間にゆとりのある人たちを中心に固定化された自主防災組織を構成する(シルバー世代等)。</li> </ul>		投票  10					
<b>まとめ2欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の防災練習に自治会の訓練をまきこむ</li> </ul>		投票  20					
<b>残したい意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織が訓練のための組織にならないよう大雨・台風時に実際に活動する機会を作る</li> </ul>		投票  6					

C グループ	升田	今井	桐山	田中	神戸	中野
<b>討議テーマ③ 地域の自主防災組織の課題を検証しよう</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織のつくり方に問題がある・・・ただ割り当てているだけ 資格や経験のある人をその係りに割り振る(たとえば看護師だったら救出・救護班)</li> <li>・ 町内会で決めた防災班が何をやるかのマニュアルがほしい</li> <li>・ 市で統一された表示方法を作成し、表示する(防災隊長など)</li> <li>・ 防災当番の名札を掛ける</li> <li>・ 自主防災組織のマニュアルを徹底する</li> <li>・ 情報班・消化班等各班の業務をマニュアル化する</li> <li>・ 一目で分かるように家の前に「救護班」などのふだをかけておく</li> <li>・ 市で一つのマニュアルを作り、統一を行う</li> <li>・ 防災訓練の宣伝をもっとしてほしい(駅にポスターをいっぱいはるなど)</li> <li>・ 消防祭りを復活し、若い人、子供にも楽しめる防災訓練をする</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の防災訓練に参加しよう。若い人、子供もさんかできるように</li> <li>・ 各家庭自体が組織の役割を認識する</li> <li>・ もしもの時のために町内の交流を強化する。例えば主婦の方を対象としたお茶会を開いたり、町内の子ども会が協力して子どもも参加しやすいような防災訓練をひらいたり</li> <li>・ 草刈り等の行事と同じ様に防災行事を組み入れる</li> <li>・ 町内地域での人工呼吸やAEDの使い方の講習を行う</li> <li>・ 若い方も町内会へ参加できるように親から子へ必要性を伝える</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区によっては緊急時に必要な食料などが入っている倉庫が少ない気がするからもっと設置してほしい</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> <市役所へのお願い> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 五つの班の役割のマニュアル化(町内への配布)</li> <li>・ 組織を作るときのマニュアル化(例えば、看護師の資格のある人は救出・救護班、消火栓の設置されている家の人が消化班・・・)</li> <li>・ 五つの班の名札を作成する(統一したもの)</li> <li>・ 防災訓練の宣伝・消防祭りの復活</li> </ul>	投票 		19			
<b>まとめ2欄</b> <町内組織としてやること> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一斉清掃日のように防災訓練も町内会の行事に組み込む(清掃日の日に訓練も行う)</li> <li>・ 町内会の交流強化する(主婦の方を対象としたお茶会、町内と子供会が協力した訓練)</li> <li>・ 若い方も町内会へ参加できるように親から子へ必要性を伝える。</li> </ul>	投票 		11			
<b>残したい意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区によっては緊急時に必要な倉庫が少ないようである。もっと設置してほしい。</li> </ul>	投票 		3			

D グループ	菊島	西森	英	小池	松永	工村
<b>討議テーマ③ 地域の自主防災組織の課題を検証しよう</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織てなにをしていますか。</li> <li>・ 区長が町内会長に防災訓練、活動、町名簿作成を全て丸投げする問題を真剣に考えるべき</li> <li>・ 町内会組織の見直し(機能など)</li> <li>・ 組織はされているが機能していない</li> <li>・ 町内会自体がしっかり組織・機能していない</li> <li>・ 名前だけの役が多い</li> <li>・ 町内会の実態が、地域住民の親ぼくという名目で、毎年盆おどりやもちつき大会を積極的に参加する人は一部の地域住民のみ</li> <li>・ 自主防災組織率は高いが、実際にはほとんど機能していない 率より実際に機能しているかの方が重要</li> <li>・ 個人情報保護法の壁</li> <li>・ 目的ごとに組織のサイズをどうするか。たとえば、避難時には町内会サイズがよくて、避難後は区サイズがよくないか。</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内会のつながりをもっと蜜にする工夫(防災組織という前にまずこれを)。</li> <li>・ 世代によって意識の違いがある。</li> <li>・ 個人によって意識の違い。</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的に何をすれば良いのかが分からない。</li> <li>・ 「防災訓練」ではなく、防災フェアなど楽しめるものに。</li> <li>・ 集会所や公民館などに市の職員の方をまねき入れて、役員の人に防災組織の説明をしたらどうか。</li> <li>・ 防災訓練(防災に対して意識を高める機会) 地区ごとに年1回は開催できるように。</li> <li>・ 西尾市の例のように、小学校で校区ごとに子供を中心にとすると人が集まるようになる。</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b>  1. 自主防災組織が実質的に機能していない。 2. 例えば、目的ごとの組織サイズの適切、個人情報保護法の壁等。	投票  <div style="text-align: right;">3</div>					
<b>まとめ2欄</b>  1. 町内会のつながりを、もっと蜜にすべき。 2. 個人・世代間の意識の違い。	投票  <div style="text-align: right;">1</div>					
<b>残したい意見</b>  防災フェアなど参加したくなる企画。防災訓練(地区毎に年1回開催できるように)。	投票  <div style="text-align: right;">5</div>					

E グループ	水野	小島	青木	長岡	柴田	小西
<b>討議テーマ③ 地域の自主防災組織の課題を検証しよう</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動内容を学校で体験させる(地域の人も含めて)</li> <li>・ 具体的な訓練実施による住民参加率向上(消火、耐震等々)</li> <li>・ はくぶつかん等で扉をやぶる実験や避難するすべり台などたいけんさせる</li> <li>・ 学校を巻き込んだ訓練の実施(為の訓練でなく具体的なもの) 地域住民の参加</li> <li>・ 実験を通して興味をもたせる、実際にやらせる</li> <li>・ 訓練にリアリティーをもたせる(想定内じゃなく想定外)</li> <li>・ 学校で行う訓練との連携</li> <li>・ 体験型の訓練を取り入れる</li> <li>・ 若い人の認識不足。親子を視点にした訓練</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織を知らない人が多いので、活動を知らせるのが課題</li> <li>・ 自主防災組織に対する認知度UPが必要</li> <li>・ 大きな課題は「住民が自主防災組織について知ること」</li> <li>・ 実体がよく分からない為、周知をもっとして明確に</li> <li>・ 自治会の行事の参加の見直しを考えてみる</li> <li>・ 被災地区の自主防災組織の対応をこうほう等にのせる</li> <li>・ 組織の内容を改めて見直して、現状に合っているか?考え直してみる</li> <li>・ どのような危険が潜んでいるか、危険を知らせる</li> <li>・ 自主防災組織とは何か知らない人が多い。活動内容の理解を行う</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に対する表彰制度の採用。形あるものでモチベーションがあがると思われる</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> 住民が参加できる内容の訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 扉をやぶる実験</li> <li>・ 地震体験車</li> <li>・ シューターの体験</li> <li>・ 学校で地元民を含めた訓練</li> <li>・ 放水体験</li> <li>・ 爆発体験</li> <li>・ 天ぶらの発火実験</li> </ul>	投票  20					
<b>まとめ2欄</b> 自主防災組織の広報活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら進んで関わりを持つ</li> <li>・ 被災地区の自主防災組織の対応を聞く。</li> </ul>	投票  4					
<b>残したい意見</b> 地域に対する表彰制度の採用	投票  8					

**討議テーマ③ 地域の自主防災組織の課題を検証しよう**

- ・ 存続の危機(続けますか?やめますか?)
- ・ 小学校区で子供をもっと中心に
- ・ 高校生の自主防災組織
- ・ 高校生以上は参加していない(めんどくさい、遊びたい)
- ・ 強制力のある(市からとか) 命令で若手も集める
- ・ 防災訓練を積極的に参加
- ・ 世代間のスキマを埋めるしくみづくり。急務
- ・ 若い人はたのまれれば参加したい!!世代間の情報の伝達
- ・ 若手、現役、引退者交流→交流して報告する義務(市とかに)
- ・ 親子参加型で楽しくできるようにしてみては?
- ・ 新しい市のイベントを行う
- ・ 小学校とかでも家庭との連携いして防災イベントをやる
- ・ 非常トイレ、非常食の体験
- ・ 消防士、消防団員が不定期に各家庭などをまわる(自主防災をひろめる)
- ・ イベント型の入り口を作る

- ・ マニュアルがほしい
- ・ 防災組織マニュアルの共有(仕組、存在を知らない)
- ・ 役の引き継ぎをきちんとする
- ・ 町内会の活発化・町内会の横のつながりを密にする
- ・ 回覧板等で自主防災組織図をまわして町内の人があくしておく
- ・ 活動内容のはあく
- ・ 知名度が低いのでまず市の方で特集してみては?
- ・ 存在を知らない。教えてほしい組織のしくみ、活動内容。
- ・ 認知されていない(あるの?)
- ・ よくわからなくて町内会に入らない(別に必要ないからない)  
→災害のときなら助け合える?もちつもたれつ
- ・ 自主防災組織の存在をみんなが知れるような活動(広報)
- ・ 町籍簿作成の啓発。
- ・ 個人情報の一元化。

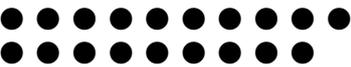
- ・ 女性の防災組織を作ってみては?
- ・ 夜間の防災訓練

<b>まとめ1欄</b>	投票
存在の危機→世代間のスキマを埋める為、小学校区で子供を中心に親子参加型で新しいイベントを行ってみる ・ 地震体験車を呼び ・ 消化活動やヘリコプターを呼び ・ 非常用トイレ ・ 非常食の体験	
	19

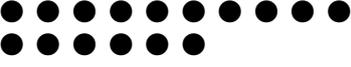
<b>まとめ2欄</b>	投票
1) 町内会単位で自主防災組織の明確化 ・ ・ ・ マニュアルを整備する→配布する ・ ・ ・ 町内の組織図、委員の仕事の内容 2) 町籍簿作成にあたって個人情報の一元化をする ・ ・ ・ 福祉課や民生委員の持っている情報を共有できるしくみ	
	18

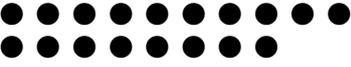
<b>残したい意見</b>	投票
婦人の防災組織を作る 高校生の自主防災組織を作る 夜間の防災訓練	
	10

A グループ	今井	大澤	古川	田中	涌井	小池
<b>討議テーマ④ 地域と行政が災害時に状況を共有し連携を図るには</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に実際は救助活動は不可能である</li> <li>・災害時に活動マニュアルが確立していない。</li> <li>・個々が団結する心がけをもつ。</li> <li>・電子機器が使えないかもしれないので一人一人がリーダー知識を持って助け合う</li> <li>・災害シュミレーションを試みる（訓練をする）</li> <li>・避難所に集まったらそれぞれの情報（看護師など）の入手をする</li> <li>・のろしネットワーク 例 避難地域で情報をリレーする。</li> <li>・ 例 本当ののろし</li> <li>・ のろしの説明 ↑</li> <li>・ A → B → C → 本部</li> <li>・ A情報 A.B情報 A.B.C情報</li> <li>・ ABCそれぞれの地区で本部が向かうより情報が集約され本部も整理しやすい</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報は迅速に正確に伝える（デマにまどわされないようにする）</li> <li>・避難所には行政の連絡方法を明記しておく</li> <li>・避難所で今何が欲しいか、何を調べたらよいかなどのマニュアルを置いておく</li> <li>・マニュアルカードの作成。携帯できる。今何がどれだけ必要？被災者の人数（男女子供老人など）確認</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪路に強いマウンテンバイクなど避難所に置く</li> <li>・通信手段が全くとれない場合に備えて避難所に自転車をおいておく</li> <li>・避難所に何が必要か等のマニュアルみたいなものをおいておく</li> <li>・避難場所に緊急連絡先を書いておく</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の広報のスピーカーの音が分からない → 設置の見直し</li> <li>・広報スピーカーを聞き取り易く</li> <li>・広報アナウンスの聞き取りにくい場所の改善</li> <li>・広報の聞き取りにくい地域の見直し</li> <li>・各家庭に広報の聞きやすい機械を備えつける</li> <li>・広報的スピーカーを各戸につける</li> <li>・広報アナウンスを戸別に設置 特に年配の独居の方など</li> <li>・被災後の時間経過により行政側も何の情報が必要かわかってくるので 各々の情報を受ける体制を確立してほしい</li> <li>被災直後 → 被災情報 被災数時間後 → 物資 応援など</li> <li>・エリアメールいいと思う</li> <li>・孤立しそうな地域は前もって行政に伝えておく</li> <li>・自主防災組織の確立した上で避難先で必要物資の数量把握した上で行政に物資要請をする</li> <li>・自主防災組織がなくてもある程度動ける様に避難先にマニュアルを設置 ← マニュアルに沿って必要物資を行政に要請する。</li> <li>・独居の方対象に広報多治見を家の中でも聞けるようにする</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> <市からの情報提供について> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.広報を家の中で聞けるようにする ※独居老人</li> <li>2.広報の聞き取りにくい地域の改善</li> <li>3.エリアメールの普及</li> <li>4.行政として必要（欲しい）な情報の内容を確立して欲しい 例えば避難所からの物資応援の要請など被災後の被害状況</li> </ul>						投票  19
<b>まとめ2欄</b> <地域からの情報提供について> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.避難所に行政への連絡方法を明記</li> <li>2.避難所に必要な情報項目の明記</li> <li>3.通信機器が使えない時の方法としてのろし、自転車設置</li> <li>4.個人に携帯用にマニュアルカード (対応基準を記されたもの)の作成</li> </ul>						投票  10
<b>残したい意見</b> 被災状況時個々にリーダー意識を持って助け合う為に災害のシュミレーションを試みる						投票  2

B グループ	菊島	柴田	田邊	西森	飯島	奥村
<b>討議テーマ④</b> 地域と行政が災害時に状況を共有し連携を図るには						
<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会での連絡もうは出来ているかわからない</li> <li>被災時の窓口連絡はどうなっているのか？分からない</li> <li>防災ムセン情報が地域住民には一番の情報が速いのではないか</li> <li>情報の窓口を広く、かじして行くべきではないか！</li> <li>近所の情報をどこに知らせるべきか</li> <li>窓口が1つではパンクしてしまうので災害ダイヤルと窓口を多くしてほしい</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の大きさにより地区の対応でよいのか市の対応で良いのかわからないので 窓口をはっきりしてほしい</li> <li>県と市（他県、他市）協力して</li> <li>県境、市境 → 情報共有</li> <li>学校、病院等のインフラが使える所でのインフラ使用（PC等）情報発信も化</li> <li>住民や市役所からの最新の生きた情報をツイッターで発信することも必要 それぞれの関係する自治体地域の代表者らでタイムリーに情報をつかみ 適切に判断と処理を行うべき</li> <li>情報入手方法 → 新聞、メール → ない人は？</li> <li>あらゆる「公」施設で掲示 公民館、図書館、学校</li> <li>広報無線設置位置見直し</li> <li>商業施設駅などでも広報と同じアナウンスをする</li> <li>TVのaデータの活用</li> <li>情報公開先を増やす、わかりやすくする（twitter,HP,公報etc）</li> <li>公共設備での防災情報の提供の強化（防災MAPなど）</li> <li>ケイ示板のかつ用をもっとして欲しい！</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の住民が出来る対処はどんな事が出来るのか？</li> <li>自治会での防災行動のマニュアル化</li> <li>自主防災組織充実 まず自己解決をはかる ・自主防災ではもうどうしようもないこと他地域まで被害がおよぶことを報告、対応依頼</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の住民が出来る対処はどんな事が出来るのか？</li> <li>自治会での防災行動のマニュアル化</li> <li>自主防災組織充実 まず自己解決をはかる</li> <li>自主防災ではもうどうしようもないこと他地域まで被害がおよぶことを報告、対応依頼</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>防災メールの登録を家族で1つではなく家族全員が登録できれば良い</li> <li>新聞をとっていないので市のホームページで確認する</li> <li>防災上の養成をもっと行ったらどう？</li> <li>災害時に前回被災した道路等の修復が全く手がつけられていない。 または途中の場合に二次災害や災害の拡大を防ぐ方法を住民で決めて 実行できるようにすべき</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集手段の拡充を要望します</li> <li>TVのデータ放送でも見ることができる（FM PiPi AMラジオでも）</li> <li>市の公式ツイッター配信</li> <li>広報無線の数と位置の見直し</li> <li>公共施設での情報提供（学校、公民館、図書館、病院）</li> <li>他県、他市との情報共有、連携</li> </ul>						投票  19
<b>まとめ2欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>連絡手順の明確化を要望します</li> <li>地域ごとに情報を集約できる場所をつくる （公民館、学校、ないところは商業施設でも 地域の避難所へ集める） そこから市へと情報を流す</li> <li>窓口をパンクさせない</li> </ul>						投票  8
<b>残したい意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災メール登録、ホームページ確認、防災士の養成、自主 防災組織の強化、充実</li> </ul>						投票  2

C グループ	権蛇	英	小島	水野	小木曾	青木
<b>討議テーマ④ 地域と行政が災害時に状況を共有し連携を図るには</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報スピーカーが聞こえない場合確認の電話番号もっと周知させるべき</li> <li>・ 災害情報ダイヤルが利用者が少ないからやめたではなく、周知させ普及させるべき</li> <li>・ ネット、TEL、コンビニをうまく使っていきべきでは</li> <li>・ 交通情報が分かるように問い合わせ先やネット上を利用してのせていく</li> <li>・ 各地域の市が受けた情報をホームページ内等にのせられる所があるとよい</li> <li>・ 情報共有はできている部分もあるが知る手段が周知されていない。</li> <li>・ 広報スピーカーを通した情報がききとれない場合の'企画防災課'へ連絡することを知らない</li> <li>・ 災害情報（リアルタイム）をどこに聞けばいいかを教えてほしい。窓口がわからない。</li> <li>・ どのような情報がどの機かんから、どの様な方法で展開しているか、という情報の役所からの周知</li> <li>・ リアルタイムな情報を集められる手段の確立</li> <li>・ 広報スピーカーの内容が聞きとりにくい。 →ホームページ上でリアルタイムに情報を提供してもらうようにしてほしい</li> <li>・ 市がツイッター等をネットが使えない人達向けのダイヤル（連絡する）を作る</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連絡（町内・市）へし、情報を共有する。</li> <li>・ 水害など被害状況を連絡する。（市民から）</li> <li>・ 町内の災害状況の掌握（報告） 個人→町内会長等</li> <li>・ 自分が知っている情報をどこに伝えたらいいのか教えてほしい。</li> <li>・ 災害（水害・火災等）に災害地域の情報を市民から吸い上げる体制作りが必要</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図上研究等の見学流れを見学することにより、理解できる（情報の共有）</li> <li>・ どの様な情報しゅう集の方法があるのか、自ら（自治会、個人）調べる行動をする</li> <li>・ 恵那市が行っている防災アカデミーのような企画を市主催で自主防災組織を対象に行</li> <li>・ 市が主催で市民に防災教室を提案（企画）する</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b>		<b>情報収集</b>			<b>投票</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民が情報を提供できる体制作り (ツイッター、ホームページの書きこみ)</li> <li>・ 窓口を周知</li> </ul>					12	
<b>まとめ2欄</b>		<b>情報発信（共有）</b>			<b>投票</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害ダイヤルを作り、周知させる</li> <li>・ FMPiPiやオリベチャンネル等により情報をリアルタイムに流す</li> </ul>					6	
<b>残したい意見</b>					<b>投票</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市主催の防災アカデミーの企画、開催</li> </ul>					14	

D グループ	小西	井戸	升田	中野	河地	廣地
討議テーマ④	地域と行政が災害時に状況を共有し連携を図るには					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路状況の把握と情報提供（隣の市と連携をして）</li> <li>・道路の確保、移動手段の情報が欲しい</li> <li>・隣接市との連携が必要</li> <li>・大雪のときに危険なところは最初から通交止めにして報送してもらいたい</li> <li>・岐阜県ー愛知県（多治見市ー瀬戸市）とのやりとりは出来ているのか？</li> <li>・孤立する地域を救う手段</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツールとしてはハード</li> <li>・生活弱者には防災無線を！！</li> <li>・働き手にはメール活用を！！</li> <li>・行政の情報限度にあたっては（ソフト）事実を、分かりやすく、スピーディーに、くり返し、アナウンスする事</li> <li>・老人はメールとかホームページはみれないので放送をかけてもらいたい</li> <li>・家庭への防災無線の設置（特に年配の方の家）</li> <li>・災害メールをもっと人に知ってもらえるためにもっと宣伝をしてもらいたい。</li> <li>・町内放送をフル活用する。 （警報が出た時や、避難のときだけではなく、ここが危ないなどの報送をしてほしい）</li> <li>・地域の危険を知らせる簡単なしくみを</li> <li>・福祉電話を希望者にはとりつけてほしい</li> <li>・希望者各個に防災情報システムを配布するしくみ</li> <li>・メールのシステムを回欄板で告知する</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人からの行政の方へ情報提供をしてそれを生かせる（仕組み）ようにして貰いたい。</li> <li>・双方向の情報システム</li> <li>・防災モニター登録制にして通報してもらおう</li> <li>・市民から市への通報システムの確立利用 （110番のようなもの ネット掲示板 ツイッターなど）</li> <li>・情報収集について市民の情報提供を積極的に取り入れる（ツイッターなど）</li> <li>・市民からの通報システムを確立する</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難かん告等と連動したハザードマップの整備</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b>	行政から市民へ				投票	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災無線のフル活用（地域ごとのきめ細かい情報提供）</li> <li>・多治見市緊急メールの普及促進</li> <li>・防災電話（希望者）の整備</li> <li>・情報は①事実を②分かりやすく③スピーディーに ④くり返しアナウンスしてもらおう</li> </ul>						
16						
<b>まとめ2欄</b>	市民から行政へ				投票	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人からの情報提供システムの確立</li> <li>・防災モニター制度（事前登録）</li> </ul>						
11						
<b>残したい意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接市町村、道路管理者との連携 （大雨、雪などの時の対応）</li> </ul>				投票	
9						

E グループ	神戸	小島	松永	和田	川村	宇田
<b>討議テーマ④ 地域と行政が災害時に状況を共有し連携を図るには</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・けいたいのメールを活用しましょう。</li> <li>・携帯ショップでの緊急メールの内容告知 協力依頼（実地済も普及せず）</li> <li>・回覧板、児童館、公民館、バローなど商業施設で緊急メールアドレスを貼っておく</li> </ul> <p style="text-align: right;">市民からの情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップにケータイの登録をうながす</li> <li>・多治見市の緊急メールの活用 周知徹底</li> <li>・携帯メールの市民通報バージョンの検討</li> <li>・災害時 国からの情報提供（携帯メール） ⇄ 自治体、市の情報提供</li> <li>・回覧や児童館や公民館や学校などにケータイ防災メールのアドレスをはっておく</li> <li>・待つだけでなく一人一人が情報を得るために動く</li> <li>・ハザードマップに緊急メール登録をすすめる書き込み</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報を聞きやすくする改りょうをしてもらう</li> <li>・オリベネットやFM PiPiをもっと知ってもらう</li> <li>・有線での情報伝達はどうか 防災無線のききにくさの解消</li> <li>・おりベネットワーク FMピピを利用した情報発進 両メディアの認知度UP</li> <li>・行政との役割分相の明確化 マニュアルの作成</li> <li>・地域、隣近所のコミュニケーションを意識して図る</li> <li>・個人 自治体 市 役割分担 たとえばマスコミとの提携など</li> <li>・情報の伝達方法としてオリベ、FM PiPiの活用、緊急メール（近くの自治体のものも）</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国交省、NEXCO、からメールなり情報をしいれるにはどうしたらよいか</li> <li>・他自治体の好事例を採用</li> </ul>						
<b>まとめ1欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア ハザードマップになど携帯ショップ緊急メール告知</li> <li>・イ 回覧板、児童館、公民館やバローなど商業施設で緊急メールアドレスを貼っておく</li> <li>・ウ 市民からの情報伝達</li> </ul>						投票  18
<b>まとめ2欄</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災無線が聞きづらいためマスメディアとの連携活用、おりべ、有線、FM PiPiをもっと広範囲で利用する</li> </ul>						投票  5
<b>残したい意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①他自治体の好事例の研究と採用</li> <li>・②国交省、NEXCOからメールなり情報をしいれるにはどうしたらよいか</li> </ul>						投票  3



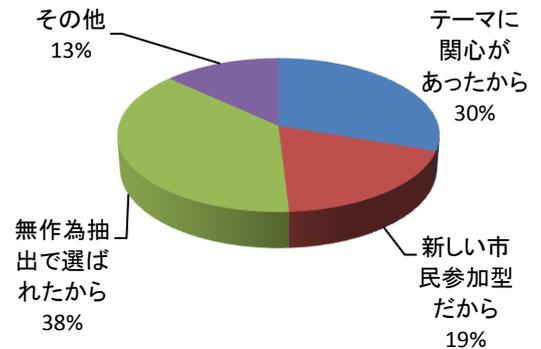
# Heart of Tajimi 2012

## たじみ市民討議会2012 参加者アンケート結果

開催日：平成24年6月23日、24日 参加人数：37人 男性：18人 女性：19人

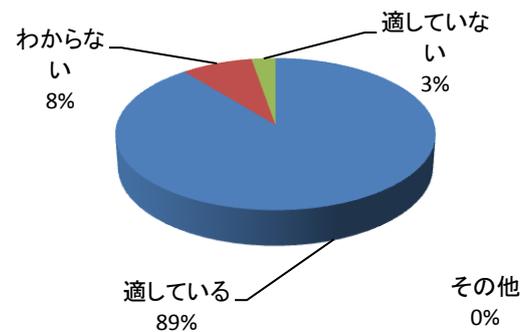
問1. 参加動機について聞かせてください。（複数回答可）

1.	テーマに関心があったから	16人
2.	新しい市民参加型だから	10人
3.	無作為抽出で選ばれたから	20人
4.	その他	7人
合計		53人



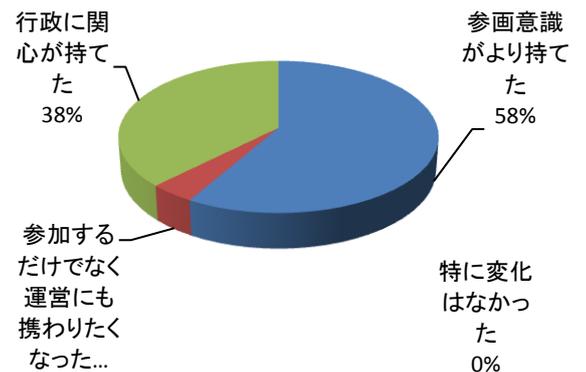
問2. この討議会で、市民の声を行政に伝える手法として適していると思いますか？

1.	適している	33人
2.	わからない	3人
3.	適していない	1人
4.	その他	0人
合計		37人



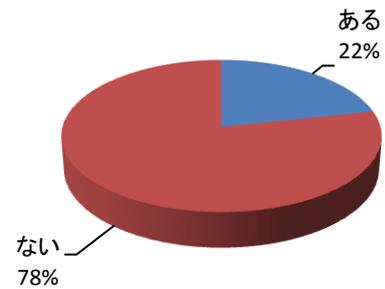
問3. より具体的な感想（意識の変化）をお聞かせください。（複数回答可）

1.	参画意識がより持てた	28人
2.	参加するだけでなく運営にも携わりたくなった	2人
3.	行政に関心が持てた	18人
4.	特に変化はなかった	0人
合計		48人



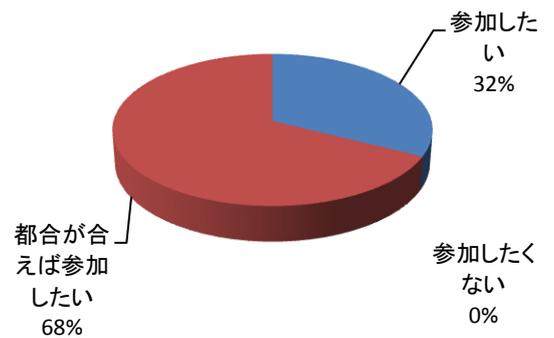
問4. これまでにタウンミーティングや地区懇談会といった市が主催する討論の集まりに参加したことがありますか？

1.	ある	8人
2.	ない	29人
合 計		37人



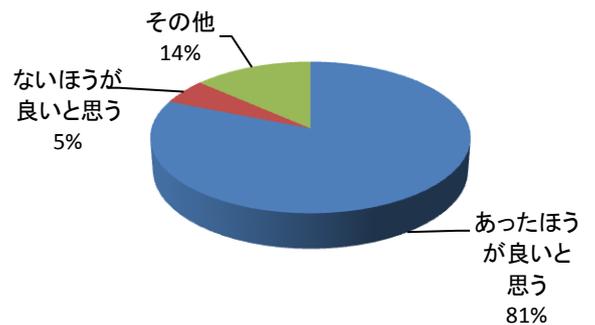
問5. 市民討議会に限らず多治見市の市民参加の試みに今後もまた参加したいと思われますか？

1.	参加したい	12人
2.	都合が合えば参加したい	25人
3.	参加したくない	0人
合 計		37人



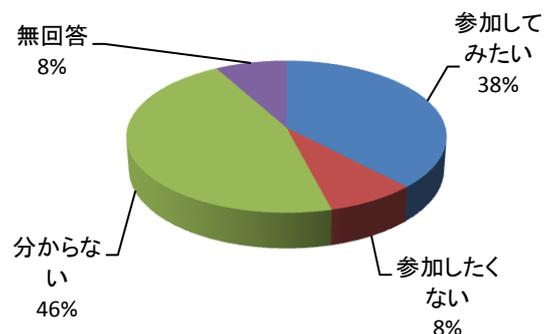
問6. 今回市民討議会の謝礼についてどのように感じましたか？

1.	あったほうが良いと思う	30人
2.	ないほうが良いと思う	2人
3.	その他	5人
合 計		37人



問7. 今後、この討議会を開催していく上で、今回参加していただいた市民の皆様にスタッフとしてお手伝いいただきたいと考えております。スタッフとして参加してみたいですか？

1.	参加してみたい	14人
2.	参加したくない	3人
3.	分からない	17人
4.	無回答	3人
合 計		37人





## ■ 第5章 たじみ市民討議会の広報

### 5-1 たじみ市民討議会の掲載記事

○掲載記事

2012年5月17日(木) 岐阜新聞

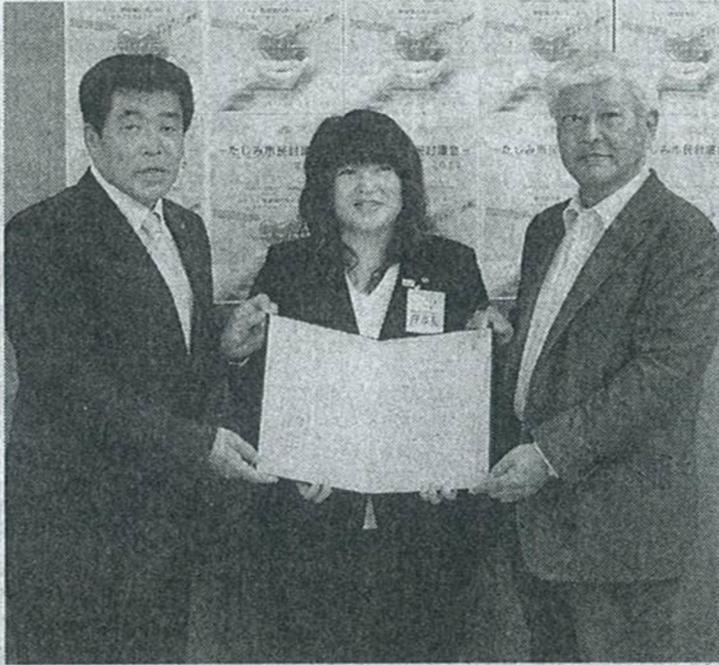
## 来月の「たじみ市民討議会」実施協定

# JC、実行委、市が調印

## 「住みやすいまち」をテーマ

6月に多治見市で「たじみ市民討議会2012」を開催する多治見JC、市民ボランティアで組織する実行委員会と同市の3者は16日、市役所で実施協定に調印した。

(藤田聡)



「たじみ市民討議会」の実施協定に調印した小川祐貴子JC理事長(中)、竹本幸二実行委員長(右)、古川雅典市長(左)多治見市役所

討議会は今年で4年目。昨年は、43人が参加した。これまで討議会に参加した市民ら10人が実行委員会を組織し、運営に加わる。開催日は、6月23、24の両日で、同市新町の市産業文化センターで開催。

総合テーマは「日本一住みやすいまち、たじみにするには」。サブテーマとして「地域と行政が連携して災害に強いまちにするには」を掲げた。具体的

には▽家庭で取り組む防災対策▽防災マップの活用方法▽自主防災組織の課題▽災害時の地域と行政の情報共有の4項目について討議する。

した市民1600人に参加を依頼し、承諾した市民がグループに分かれ討議する。2日間で謝礼として6千円が渡される。

参加者は、住民基本台帳から無作為に抽出

調印式には、小川祐貴子JC理事長、竹本幸二実行委員長、古川

雅典市長が出席。古川市長は「討議会も回を重ねてきた。今後は政策を実現するために、誰がどこまで負担するのか、予算なら何を削ってひねり出すのか、踏み込んだ議論を期待している」と話した。

防災について意見を交わす参加者ら—多治見市新町、市産業文化センター



# 災害に強いまちに

たじみ市民討議会 意見を出し合う

無作為に選ばれた市民が多治見市のまちづくりの課題を討議する「たじみ市民討議会」が、同市新町の市産業文化センターで開かれ、災害に強いまちについて、意見を出し合った。

(田中大嗣)

幅広い世代や職業の市民が行政に参加する機会をつくろうと、多治見青年会議所と同市が主催し、今年で4回目。住民基本台帳から抽出した20歳以上の市民1600人に依頼し、参加を承諾した市民37人が参加した。

揭示などの意見が出された。

討議結果は、7月19日の中間報告会で集約し提言書としてまとめ、8月22日に古川雅典市長に提出される予定。

# 防災など市に提言書

## 多治見JC 市民討議会での要望

多治見青年会議所（JC）は二十二日、六月の市民討議会でも出された市政への要望をまとめた提言書を市に提出した。

討議会は同JCと市が主催する恒例事業で、今年で四年目。「Heart of Tajimi」たじみ市民討議会2012」

と題し、無作為に選ばれた市民から三十七人が参加した。

市民たちは、災害時の地域と行政の連携、自主防災組織の課題などをテーマに意見交換。ボランティアでつくる実行委員会と、同JCが意見をまとめた。

行政が協力した防災マップ作りの推進や、災害時の市民・行政相互の情報伝達手段の整備などを求めた。同JC

の小川祐貴子理事長と竹本幸二実行委員長らが市役所を訪れ、古川雅典市長に手渡した。古川市長は「聞きっぱなしにせず、提言書を目に見える政策に変

えていく。その際は皆立って動いてほしい」と話した。（谷口大河）



古川市長(左)に提言書を手渡す竹本実行委員長(中)と小川理事長(右)＝多治見市役所で

### 【金曜特集】 市民の「声なき声」を拾う 多治見市と共催して第4回市民討議会

多治見青年会議所  
市長と多治見市の共催による、第4回市民討議会がこのほど、同市新町の市産業文化センターで2日間におこなわれた。

多治見青年会議所(1)と、小川祐貴子理事長と多治見市の共催による、第4回市民討議会がこのほど、同市新町の市産業文化センターで2日間におこなわれた。

岩井慶さんが行った。委員を務める防災士の中学校の教育で意識づけする「過去の災害

千人ほどに依頼状を送付すると、五十八人から返答あり、当市などに、市など市とタッグを組んで平多治見では、「1」がは参加者四十七人で、三回からは、過去の参

「風通る新作、会場と調和」  
小栗寿賀子さんが作陶展



多治見市小栗町の又孝さんだ。同所では、ほぼ一年半ごとに開催している。明治時代の民

「風通る新作、会場と調和」  
小栗寿賀子さんが作陶展

#### 市民討議会の流れ



①各討議テーマごとに、行政関係者やその分野に詳しい市民が情報提供を行い、基本的な情報を共有する



②6グループに分かれて討議開始。グループは討議テーマが変わるごとに編成をし直す。最初は自由に発言



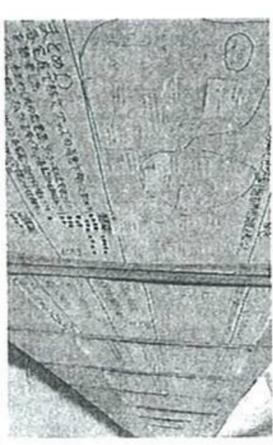
③話し合いが終了するとまとめ作業に入る。グループ内では最初に決めた、進行・まとめなどの係がいる



④「まとめ1」「まとめ2」「残した意見」にまとめ、各グループの発表係が順に読み上げる



⑤発表が終わると投票。一人6枚のシールを持ち、良いと思う意見の欄にシールをはっていく



会場には終了した討議テーマの発表内容を掲示。最終的には4テーマ×6グループ、24枚の紙が並んだ

「市民討議会」は、情報を共有し連携を図るために、情報提供は、恵那市役所防災情報課の野田幸次朗課長が行った。

# 中京高等学校

## 【夏の学校見学会】

### 織物や絵画など80点

知的障害者の施設が作品展

多治見市小栗町3-3 / 27-2062 / 13:00~18:00 / 全期中のみ開催

80点を展示。新聞や地図を切り抜いたり絵画を描いたり、手はこぎを集める。栗崎さんは「昨年比べて、技術が上ってきた。障害者のひたむきな姿勢を感じてほしい」と話した。

瑞浪市土岐町76-1 / 411-09 / 68-1411-09 / 開設

加藤亮太郎志野二 / 14日から20日 / 期中は加藤さんの器を多用した茶席も設ける。

多治見市小栗町 / 1 / 多治見市立小栗町 / 1 / 多治見市立小栗町 / 1

### 中京高等学校

## 【夏の学校見学会】

本校は、多治見市にあり、約100年の歴史を誇る。夏休み期間中、本校を訪問し、本校の教育環境や施設を御覧いただけます。また、本校の生徒と交流することも可能です。

校舎：多治見市小栗町1-1  
TEL: 057-2062-1300



## ■ 終わりに

### たじみ市民討議会 2012 を振り返って

2012年9月10日

実行委員長 竹本 幸二

「たじみ市民討議会」も今年で4年目、4回の実施となりました。  
私達ボランティアが実行委員としてお手伝いを始めてからも3年が経過しました。

昨年に引き続き実行委員長を務めさせて頂きましたが、今年特筆すべきは（社）多治見青年会議所の篤い想によりボランティア主体の実行委員会を組織して頂いたことです。  
今回、（社）多治見青年会議所、市役所のメンバーの他10人の市民ボランティアが実行委員会に集い、6月に37人の市民に参加頂き「たじみ市民討議会 - 2012 - 」を開催、7月の「中間報告会」を経て「提言書」をまとめ8月に提出することが出来ました。

思えば2月の初めに今年の討議会について事前打ち合わせが有り、参画しました。  
2009年の第1回目の市民討議会に参加してから、以後3年間ボランティアとして関わってきたこの事業には自分なりの想いが少なからずあったのがその動機です。  
その後実行委員会の立ち上げ、キックオフを行い『提言書』提出まで16回の実行委員会を開催しました。

最大の難問である討議会テーマの選定には7回の会議を重ね、3か月を費やしました。  
委員各人の多治見に寄せる熱い想いを語り合い、統一テーマ・討議会テーマ決定までには委員各位の意見が錯綜し、全員が腐心しました。

テーマが決まってからは討議会の補助員としての勉強会や汗かき、力仕事を全員で行いました。

「たじみ市民討議会」はドイツで考案されたプラウヌクツェシを参考に、ブレーションストーミングで参加者の意見を出して頂き、K・J法で意見の集約を行う手法を用いました。

討議会本番ではアクシデントも無かった訳ではありませんが、終了後は実行委員全員が溢れる達成感に浸ることが出来ました。

古川市長は「聴きっ放しにはしない」と仰います。  
私たち市民も「言いっ放しにはしない」と宣言し、共に動き・共に働く「共働精神の醸成と実践」に繋がっていきます。これこそが市民討議会の神髄であり、究極の目的であると考えます。

最後になりますが、半年余の間小生の我儘にお付き合い頂き、討議会の成功にご尽力頂いた市民ボランティアの皆様、（社）多治見青年会議所地域の力創造委員会の皆様、そして市役所秘書広報課の皆様はじめ、種々お世話下さった方々に厚く感謝の意を表し、お礼の言葉とさせていただきます。  
そして、今後も「たじみ市民討議会」を通じて、多くの「たじみサポーター」が増殖する事を祈念するものであります。

